Sept. 1892
No. 327-2

女學雜誌

第三百二拾七號

乙の巻

明治二十五年九月十七日發兌

注意

社説 **宣教師派** 各女學校に一策を献ずの論文初篇は、官立、私立、及び宣教祕師派の三種の女學校を痛論し其長短を率直に批評す

何故に余れは禁酒主義なるやの一論文は万國婦人禁酒曾々頭ウイラード氏の告白

沙翁曲中の戀人はシエクスピアの諸傑作中より、あらゆる有名の戀人を描出し、沙翁が畫きたる戀愛と佳人との特殊の性情を發揮せり

家政には、育兒談の細密なる講義、家庭の養雞、及び黄金の砂二つ三つとして諸種の簡便法を追々集む

ウエスト女史は米國新來の女遊說家**肖像**を第一面に掲載し

歌の誠及池袋社中は其社の秀才某氏が景樹翁の歌論を敍するの末池袋社中の所任を明告して且つ其秀歌を列舉す

新作小說正直者の子澤山は**花圃**女史の筆にて上下二篇の讀切とし本號に掲了す、文章艶麗秀雅三誦尚有味也

批評に國母論及乳肉新報あり其他女報數十件

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 327. SEPTEMBER 17th. 1892.

EDITORIAL:—A Word of Advice to the Mission Schools.

LEADING ARTICLES:—Why am I a Prohibitionist? Francis Willard.

NOVEL:—"The Honest Man, a Man of a Large Family."

LITERARY:—Faith in Poetry and the Circle under Mr Ikebukuro.

MISCELLANEOUS:—Lovers in Shakespeare. Why has Gladstone been a Man of Health? Table-talk.

THE HOUSEHOLD:—How to Bring up Children. A Few Points in Keeping Poultry. Grains of Gold dust. (Easy Ways of Making Cakes. How to keep Raw Fish. How to Cleanse Impure Water. Remedy for Insect-stings.)

CRITICAL NOTES:—

WOMAN'S CONCERN:—

本號（第三百廿七號）目次

○社說　宣教師派各女學校に一箴を献す

○論說　何故に余は禁酒主義を執る乎（ウイラード）

○小說　正直ものゝ子澤山（花圃女史）

○文藝　歌の誠及池袋社中（紫花山人）○案山子の舍歌評

○雜錄　沙翁曲中の戀人　○何故グラッドストンは健康なりや　○茶話會（子供にきらわれる法。すかれる法○女の謹み（山月子）

○家政　育兒談○家庭の養鷄（巣鷄の撰擇法○抱卵法及び巣鷄の取扱○こがれの砂二つ三つ、手輕西洋菓子の法○生魚の腐りを止る法○汚き水を清くする法○毒虫に刺れたる時の藥○糠味噌の酸味を止むる法）

○批評　國母論。乳肉新報。

○摘要

○女報

前週（第三百廿七號）白表

●社說　日本風及西洋風

●史傳　二宮先生報德訓

●小說　夏草（第四回）無名氏

●雜錄　獨嘯偶錄（幼な兒、知らず。懺悔）。三日幻境

●論說　坐禪の辨（天知子）

●批評　開國始末の書法に關する疑問。排曲學論。日本博士全傳。明治政史。勿。

●摘要　眞正の善後策は議會解散にあり。死。紙幣流通。高軍費及教育費。青年記者必讀の書。昨年中英米新版書

●片々

前々週（第三百廿六號）赤表

●社說　情交の辨（乙）

●雜錄　避暑（ひさご）○茶話會（序）。いけない奴だとて叩く。洗濯の大助け。物干の綱の竿。男の兒と女の童。婦女子の集會。年寄の安心

●文藝　新習字法○習字二個の目的○作文に要する二要素○問答（女の子の讀本作者。雛嫁の元作者。どうして文學者になれます。

●論說　日本に於ける基督教主義女學校の目的如何

●家政　小兒に玉蜀黍○家庭の養鷄○子供と醫者○つや消しガラス家内製法

●史傳　新來の客ウエスト孃

●摘要　女子の風儀○婦女問題に關する書籍○女子の大學に入るを許すの議及び女醫に就て○新內閣員の年齡○家禽の飼料○女子高等師範學校卒業生別

●批評　國民の友夏期附錄の評（雲峰子）●女報

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌 第三百廿七號 明治二十五年九月十七日發兌

社説

宣教師派女學校に一策を献ず（上）

假令ひ西教を可とせず其傳道を懌こばざるの徒なりとも、一歳幾千圓の黄白を擲うつて、多年我國女學界の爲に拮据經營する宣教師派女學校を見る時、其の好意の尋常ならぬに感じて、誰か一片敬謝の情を寄せざるを得ん。其教育法の果して能く日本の需要に應ずるや否や、其卒業生の果して能く日本婦人の卒先者たるに適ふや否やは、暫らく論ぜずして可なり。彼の派諸學校の設立者、維持者、及び教育者が、博愛の大志に奮ひ、四海兄弟の情に動き、幾多仁人君子の義捐金を合し、波上万里の海洋を横ぎり、迫害冷遇の地に安如として鞠躬盡力せらるゝを見ては、何人か其至誠に感動せざらん。昔は益王嘗て假山を作る、僚屬を召して酒を置くに、衆皆な褒美す、獨り姚姐首を俛して見ず、王彊いて之を視せしむれば、則ち

新來の客 ウエスト女史

去十二日米國より着

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

姐の曰く、但だ血山を見るのみ、安んぞ假山を見るを得んと。吾黨、彼の宣教師派女學校の宏壯なる大建築を目撃し、其の白堊の燦然として旭日に輝り、其尖頭の射然として天空を刺し、其高樓大厦の巍然鬱然として殿の如く城の如くなるを見る毎に、未だ曾て歎謝の感詞を發せずばあらず。あゝ噫是れ海外義捐者涙血の紀念碑なるかと。此の大建築を結構せしめ、此結構を年々に維持する巨多の出費は、或は寡婦が襤褸を綴りて得たる數箇のレプタより、或は農夫が食費を儉して得たる多少の貯金より、或は髮を切つて賣りたる乙女の涙より、或は畜鷄の卵を金にしたる小童子の事業より、集まり來れり。單に大結構を一見して是れ壯ん也と輕評し去るものは、袖の潤ひたるを見てやゝ重しとのみ感じ、之に哀涙滴々の懸れるを思はざるに均し。吾黨は、彼の大建築中に行はるゝ、心切有情の教育を重んぜざるにあらず、其教育者たる宣教師諸君が獻身犧牲の盡力に感ぜざるにあらず、然れども、多少要緊に中らざる其教育法を見て少しく不審し、其教育者の生計必らずしも大ひに貧苦ならざるを見て稍や憂思を減ずるの際、心緒を一轉して此校設立の本源に溯ぼり、千百多數の義捐者が限りなきの至誠至愛に思ひ至る時は、天の一方に長嘯して、泣謝、慨歎の情を禁ずると能はず。

此故に、吾黨は、多年、宣教師派女學校を尊重して措かず、幾度か同胞に代りて感謝の情を寄せたり。若し之と共に同勞するやと問ふものあらば、吾黨は不幸にして之を敢てするを能はずと言はん。吾黨は、其忠實なる朋友たるも、未だ其の同住の家族たると能はず。こゝを以て、久しく教育方法に意見を異にし、憾を遺して、多年別途に盡力したり。此故に、彼派女學校の德を稱揚するに何等の美辭を以てするも、世人は之が爲めに吾黨を目し、所云る流行的頌德表を上まつるものと一視するとあらざる可し。但だ、吾黨の精神幾度か彼派女學校の當路者に誤解せられ、深衷正情の忠言は反つて一片冷評の半錢の文字と同視せらるゝとあり。彼の當路者にして幸に眞懷を酌むとあらば、何等の慶事ぞ。

夫れ、吾黨が、深く望を彼派の女學校に掛くる所以のものは、眞に之に有望の種子含蓄せらるゝとを認むるが故なり。抑も政府の女學校は超然として時流の上に立ち、一定の方針を貫ぬきて百年の教育を施こす可き筈のもの也、然るに現政府設

三

立の女學校を見るに、世論の流行と共に方針を變へ、文部大臣の移動と共に方針を變へ、大抵數年毎に方針を變へ、未だ曾て一思想一精神を以て之を貫通するヿあらず。如此き學校より何の善き者あらんや。凡そ育英には、精神なかる可らず、精神なき教育者は木像を造るヿを得るも、人物を作るヿ能はず。西洋風流行の時には、教場の隣にて踏舞せしめ、洋服を着せしめ、束髮せしめ、嚴然たる規則の如きものを以て之を命令し乍ら、一と度び保守的の流行となれば、忽まち、お轉婆排斥と稱へ、躰操にも掛念し、人の尤とも高尚なる研究たる宗教上の研究をも制限するに至る。如此き教育の下に、識見確固、精神凜然たる人物を得んヿを望むは、猶ほ微温湯を以て金砂を鞴かんとするが如し。或人は辨じて言はんとす、此は前后に校長の同じからざるが故なりと。然り、校長の同じからざるが故也。然れども、何故に、校長は若く變易するか。校長の變易する所以は、主義の變化したる結果にあらずや。夫れ、校長は、文部省の方針によりて變り、文部省の方針は、輿論によりて變る、而して輿論は風の如く、煙の如し。教育は輿論を改造せざる可からず。輿論に伴隨せる教育にして、何の善き事成らんや。

然らば、民間の私立女學校は何如にと云ふに、其の賴母しきもの更にいよ〳〵少なし。彼等に三種あり。一は有志者の義捐によりて維持す。二は、月謝の收入にて維持す。三は、同志者の團結にて維持す。第一の義捐者によりて維持するものは、自づから義捐者の鼻息を窺がひ、其呼吸によりて左右せらるゝヿ多し、如此き學校の教育は、多くの義捐者の好意を失はざらんとするが故に、何等の定見もあるヿなし、其變化の速やかなるは言ふ迄もなし。第二の、月收によりて維持するものは、只管らに生徒の多からんヿを欲し、生徒を一の花客として、之に愛嬌を賣らんとす、如此き學校は一箇の見識を書生に吹込むにあらずして、書生の注文によりて吹込まるゝ也。如此き學校は文字の商賣を爲すと云ふべし、眞理の教育を爲すとは言ふ可らざる也。凡そ、此等の二種は、今の官立學校にだも及ばざるヿ遠し、其守る所の陋猥にして、其教師の下賤なるは言語に絶す、眞の教育者たらん人は、如此き俗輩と齒ひするヿを恥づべき也。但だ、彼の第三種のものに至りて、初めて語らふに足るを知る。此等は、同志者の團結

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

によりて維持し、同精神の敎育者合して一定不變の敎育を施こす、故にもとより義捐者によりて動かさるゝとなし、よし万金を寄するとも、黄金によりて此精神を轉ぜしむ可らず、書生の之を慕ふものは門弟子となり、否らざるものは去る、水百世に流れて漢江は千古同じ、一去一來、同志者の信念を動かすに足らず、夫れ此に至りて、初めて純然たる同志者私立學校の面目を呈すと云ふべき也。

然れども、悲しひ哉、學校々舍は多くありとも、眞正熱實の敎育者は至りて少なし、民間私立の女校百を重ぬるとあるも、所云る第三種に屬するものは、晨の星の如し、たゞに其數の極めて少なきのみならず、倘追々に其數を失なひ行かんとするこそ心細けれ。

日本の花園。

英國　ハ　ー　ト　夫人　手記

彌生の中ば、イギリスの野邊に出て、錦の花に戯むれ、百千鳥の囀ずるを聞きては、霞渡る山の端を眺め、浮世の務を忘れて自然の内に逍遙すれば、嘗て遠き「やまと」の國に遊びし事の樂はむらくと心に浮び出づるまゝに、今試みに拙き筆の迹に其名殘を止め置かん。

吾等が名古屋の町を出て西の都なる京都に來りしは卯月七日の夕なりき。停車場より直ちに人力車と云ふに打ち乘り、逸早く靜けき夜を車の音に打破り、此の都の面白き家居や、水に移る燈火の靜かなる景色を後に棄て、智恩院の邊なる公園に達する往還に出でぬ。此處は前の道と異りてさまぐの人の往來しきりなり。此處を過ぎて花園に行けば、櫻の花は咲き亂れつゝ、闇を照す電氣燈の光に映じ木陰には老たるも若きも打ち雜りて、樂しき夕を送り居けり。京都に止ると二週なり。此間絶へず花を見ては名所舊跡を探り、散歩の節々には小供の群に入り雜りて、共に戯れ遊びし事あり。吾等英人の目に端立ちて見ゆるは、日本の人の娯の純潔にして詩情のあるとにぞある。

京都に至る東京なる上野の公園にも花を見し事あり、此處は我英國にて言へばケンシングトン公園に似たる所なり。公園は櫻を以て滿ち、木として花ならざるなし。春風に散り初むる花片の間に、一家のもの手に手を取りて遊ぶ樣、言はん方なく麗し。隅田川の畔にも同じ花を植へたれども、此處に憩はしきは酒に醉たる人の多きなり。

京都の嵐山は桂川に沿ひたる山にて、畫にも書られ、歌にも歌はれ、日本に名高き名所なり。桂川は都を廻る山々の間より流るゝ急流にして、兩岸絶壁其高さ一千呎に達すと云ふ。余等一行も上流より掉して下りし事あり。急流なるが上に岩や石の横はれるあれば、手に汗を握りて危きを見る節もありしが、舟人の遣る方たへなれば、吾等も心安く景色を眺めて、嵐山の下まで達しぬ。此の渡りは流も急ならず、一方の岸には櫻あり、他の方には掛茶屋などありて、景色畫くが如し吾等嘗てローレンス河を下りし事ありしが、未だ此の度の如き經驗はあらざりき

日本には四時花の絶ゆる事なし。如月の梅、彌生の櫻、卯月のつゝじを初め、牡丹、芍藥、百合、菖蒲、山の紅葉や、池の蓮など、月を異にして、四方の花園に絶へず。取り分き、藤は美しきものなり。吾れ某日東京なる龜井戸に、此の花をながめぬ。園は即ち宮の境内にて、社の前の池に沿ひてつれる棚に、年古き藤の蔓延々としてはびこり、棚より下がる花の丈けは、二呎より三呎に達し、ゆかりの色の池に影ずる樣、畫に書くとも、筆にも及び難し。曇りなく晴れ渡る空、そよ吹く春風、美しき婦人の服裝、あどけなき小供の笑ひ聲など忘れんとするも忘られず。

庭の美しきは只公園のみに非ず。家々必ず庭ありて、英國ならば、小屋或は塵芥の捨て所となるべき場所も、此の國にては、趣味の深き庭と變ず。其の造り方中々見事なり。公園の深林など打ち見れば、古へ將軍時代の庭の面影も見へて、其術のたへなりしを知るべし。日本の人は、自然の花の美を損せぬ樣育てゝ決して奇きを愛でず、櫻の如き、我國にては、厨の擔端に人知れず咲けども、此の國にては王公貴人の愛づる所となりて、花の宴と云ふを張る事もありと。万々あはたゞしからぬ國と云ふへし。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

論說

何故にわれは禁酒主義を取るか

ウィラード女史 識す

何故に汝は禁酒主義を取るかと人問はゞ、わが幼少の頃より目に見耳に聞きし所の感化は終にわれをして此處に至らしめぬと答へん。千八百五十一年わが十二才の頃父はウィスコンシンより來りて言ふ樣、メイン州にては禁酒の主義行はれ酒類を賣る者は罪人となる定となれり」と。わが父は政治家立法家なれば主に實利より此の主義を採りしなり。父は猶言を續ぎて吾かウィスコンシンにては何時此の事の成り得べきやと問ひけり。母は縫ひかけし針を止めて「婦人の投票權を得る時には」と答へぬ。是の時より既に吾は心中に二つの事の必要を認めぬ。其一は飲酒店を禁ずるの法律、其二は此の法律を制定するに婦人に投票權を與ふるの必要なる事なり。此の事のありしより後暫時は別に變りし事もなく年月を送ぬ。素より我家には忌はしき飲酒の風などの來るべくもあらず絶へず自然を友とし讀書を樂みとして暮しけり。わが十五才の頃父はさる宗教新聞を手にして言ふ、「メソヂスト派にてはシカゴ市外イバンストンに大學を立て掲示をなして當大學より四哩以内に酒店を嚴禁すとせり是れぞ兒童の教育に適する地なり」と。此より後三年にして前の言は實行され、われは十八才の時終に此の酒類嚴禁の地に住ふ事となり、以來今に至るまで三十四年此の地に住ひ居るなり。

思ふに斯る地に一家の平和安全を計るには極めて必要なる處となり此の地は住ふ人は其生活の清潔を以て稱せられ大學は喫烟家飲酒家の少きを以て知らる。稀には内々禁を犯して酒賣る者あり、又四哩以外には此の種のもの多くあれども、兎に角禁酒法律の功あるは疑ふ可からざる事なり。上なる人も下なる人も此の主義を取り、婦人矯風會は之が爲に熱心に盡力し、幼稚園は設けられ、禁酒の雜書は出版され、集會は開かれ、加ふるに數多の牧師は專心飲酒の罪なるを說教せり。博士デラノー師は實に其主なる人なり、若し禁酒法律を以て不可となす者出るとも、住民の大多數は之に反對して立つべし。時に富有なる人々が社交倶樂部樣のものを設くるも決して酒類を用ひざる事、遊戯に賭を置くべからざる事を社則

に置けり。

此の幸なる町を出で、酒店多き市に行く時は益々わが敎へられし信仰の必要なるを悟れり。われはメイン州を始めカンサス、アイオワ、ウェルモントの諸州に至りて、禁酒事業に從事する諸兄姉より其法律の事などを學べり。思ふに人の幸福、神聖、道德、宗敎を維持するには飲酒店の撲滅に如く者なし、左れど社會が全く禁酒に同意するものに非ず之が反對の運動を爲す者もあれば、われら此の事業に從事する者は先づ强固なる團躰を造り漸々進歩せざる可からず、初の程は困難なる事明なり、夫はソーマセット女史が「凡て改革の事業たる其成功せざる間は人に知られずと」言ひし如し。われらは只理論のみに非ず實際に、法律のみに非す政治に、此の事の行はれん爲力の有ん限り勉めて後已まん、われら屢々世より嘲らるゝ事あれども、數多の同主義の者既に朋友なり、社會盡く冷淡なるに非ず、勉めよ吾等は神と人との前に正義を行へばなり。

斯くわれは家庭の敎に依り、敎育に依り、觀察に依り、經驗に依り、尙信仰と望と愛とに依りて禁酒の主義を取るなり。

われ之を知り之を行ひて常に慰あり。

小說

律義者の子澤山

其一　花園女史

寐ぐらにかへる烏の聲も今はしづまりて日はとつぷりと暮れぬ、やつ〳〵しき小屋の内の爐にもえさしたる薪の餘燼はあたゝかに光りをはなちて、薄くらくも部屋の内の模樣はみえすくめり、壁には漁獵の網をかけて臥所にはちぎれたるまゝの帳をたれ、其側へには足をつくろひたる古き長椅子に筵様のものを敷て上には五人の男女の子供等、天使の巣籠りかと快く寐入たり、母にやあらん中年の婦人は臥所の床に手をかけ額をおしあて跪き暗き外面の空模樣沖のあら浪に一葉の舟のかぢとり佗ぶらん夫の上を案じわづらふなるべし」夫は幼きより漁獵を業とし日となく夜となく高浪とすまゐて妻と子供をすぐす四反の帆二本の櫂三寸の板子の下は地獄といはるゝはかなき業に留守をまもれる妻は帆をつぎ合はせ網をつくろひ、又かたはらに數多き子供の世話もけふははやはてゝ

ゐろりにかけし自在鈎に鍋をかけ、僅の火だねを吹おこし、夫の得ものゝ鮮魚を羔どしけふの勞をなぐさめんとたゞ〳〵夫の無事をいのりゐたり、げにや魚のあつまる所は多く危礁の間にあり、しかも潮のさしひき風の摸樣によりさま〴〵に移動してこの道に練熟せるものにあらざればそれを見出しがたくまた見出しつるにもせよ、場所の危險は避るにかたし、實にあさましき世渡りと、夫は妻の家にありて案じくらすごとく、亦海上にありて妻をおもひ袖に涙の波も立ぬべし、かゝる世の荒波をもしのぎて稼ぎに稼げど追付貧乏、衣は幼き者も夏冬ともに素足のまゝ、食さへ裸麥のパンにバタだになきもかなしや、折しもあれ、海鷗の鳴聲おびたゞしくどう〳〵と打來る浪磯にあたりうちかへさるゝ音すさまじ「チヤ暴れと婦人のつぶやく間もなく篠を束ねて降くる雨に地軸もくづれんかと安き心なく、おもひやる海上の我夫、この愛らしき子供等の父、今何をしておはすらん、せめてこの子供等の一人にてもかゝる時父の手助けせんほどに成長したらんには、嗚呼この時氣にたゞ一人さこそ御心細からめとかこつも愚痴の凡惱にて、さらば二人の上にこの憂慮のかゝるとしらぬ夢心地なり、おもひに堪かねし婦人はつと立上り燈とり出、かたく其蓋をおほひ、外に出風雨によろめく足ふみしめて遙に海上を見わたせば、あやめもわかぬ眞の闇の中にわづか地平線に一刷毛はいたる薄白き波の光磯ちかく錨おろしたる船の燈螢火の如くゆらめくよりものもなし、時に一しきりさとおとしくる風に見る〳〵吹まくられたる一ッの茅屋吹ちる束藁はあしもとに落來りぬ、婦人はうちおどろき、げに〳〵かの家はかつて夫の物語りに聞ししがなき消光の後家の家なり、此頃はわづらひたりと聞に此風雨此有樣さこそ便なからめと足早にそこにおもむき、戸をたゝけども音もなしおさなき者にやめる人音なきも尤なりと「ゆるし玉へ御隣の者なりとなほも雨の音とゝもに叩く扉は自然明きて暗黑なる内の天井は目籠の如く漏雨は瀧の如し、見まわす彼方の角のやれくづれたるふしどの上に横たはりゐる後家の姿手に持燈にすかしてみれば細く痩せたる手にて蒲團のわらをつかみしまゝ側に臥せる二人の子供にはうすきながらも衣を打かけて我身は裸のまゝにやれたる毛布をまとひ顏は蒼白く手足氷の如くつめたくかたくかたまりておはれなるかな一度は榮耀にくらせしとか聞、

し某夫人も世の浮沈にはかなくもかゝる漁村にかゝる有様、人の情を命にて幸なき身の、ア、歎きのまゝの身の、なるはてをいかなる夢か見るらんしらぬ子供等の側にゑみをふくめる寐顔、いかなる惡鬼も袖しぼらでやは。

其二

婦人はわが家の内、はじめてわれにもかへりてみれば、何とてかゝるものをば、人の家よりぬすみ來つらん何とてそを、あの帳の内にかくしけん、如何なるこゝろにてかくしたるぞや、たれにゆるされて、とゾット身ぶるひして悔る時よはほのぐとあけそめて波の音もやゝしづまりぬ　嗚呼吾夫はこの雨風にいとひなく命かけての業、それもたらぬ勝のくらしに、なにぞも、わが五人の子等をわすれてか、われにもあらでせしわざの心苦しさ、さりとて、今更いかゞはすべき、吾夫の何とのたまふらん、と部屋の内に立つ居つ思案にくるゝ折から、表のかたより戸をおして晨光のさし入ると共に入來る夫片手に網を引さげ、いつもながら元氣よく　夫「戻つた　婦「ヲヽよう御無事で、いひさま婦人は抱きつき、その唇をかの頬にあてたり、其頬は見事なるひげおひ目元すゞしく、品格ある天晴の男賤しき漁夫と見えぬ人品もはた妻のこひしたふ原因なるべし。

夫「イヤひどい運だつた　婦「お天氣のもやうは　夫「咄しにもならぬあれサ　婦「獵は　夫「どうして何、かうして再度握手の出來るが何より〱しかし得物斗ではない、何もかも網も破りかぢも折、もやひづなもきつた、しかしおまへもさぞこわかつたらう　婦人は顔を皺めて　婦「何ともありませんでした、繩物をして居升たから、でも隨分こわうムい升た　夫「あれは冬のならひだ、いつもかうときまつた事でもない又天氣のよい獵のあることもあらうヨ、妻は夫の前犯せる罪におそる〱　婦「あの御隣のかみさんなくなりました、男と女の子を殘して男の子は漸つかまり立、女の子は片ことまじりに口もきけて、いたいけ盛り、ほんに氣の毒であのやうなよい人を　夫はいきせき　夫「ハレヤレ死だ、かわいさうに、當人は仕方がないとして子供はどうした、目がさめてお袋の死だのをみたらどうだらう、ア、目の前にみえるやうだ、氣の毒だなア、おまへわしにはちつと過た咄しだけれど、マヽヨーかたない、おまへ行て其子供を連てこないか子、五人に二人、ナニ七人位の子供どう

かゝうかすぐせさうなものだ、獵がないといつて、ヱ不承知かへナゼ默つてゐる、善根をすれば神樣が助けて下さつて獵もあるよ、内の子たちと兄弟姉妹といはせてそだてゝやらうわしとおまへは水斗吸んでゐても〳〵、しかしおまへには氣の毒だ、とんだ難義をかけて、婦人は心落ゐてか少しうち笑ひて、夫の手をとり臥所の帳をすこし引わけ　婦「この中を御覽なされまし」

文藝

池袋社中につきて思ふと　紫蕘山人

和歌は誠實を本性とす

カーライル曰く、獨逸近世の批評家は云ふ、詩人は彼の中に無限(インフイニチユード)を有し、其の無限なる或る品質即ちウンエンドリッヒカイトを彼が描出せんと題する者に契合する者なりと。是れ甚だ精細に盡さずと雖も漠々たる裏、倘ほ記臆すべきの價あり。若しよく默想すれば則ち、或る意味の徐々として其の中に發見せらるべきを知る。余は詩はメトリカルにして、音樂を其の中に有して即ち歌なりとの、陳腐平凡の區別の大に尊重すべき深意あるを發見す。誠なり、若し强ひて區別せば、爾の描出する所のものが、確實に音樂的、啻だに言語に於てのみならず、心に於て實躰に於て、其の凡ての思想と言語とに於て、其の全き概念に於て、音樂的なれば則ちポエチカルたるべし。若し然らずんば則ち非也。——音樂的とは果して如何！音樂的思想とは即ち、物の極內部の心に迄貫徹したる所のマインドによりて語られたる者、又其の極內部の秘密を摘發したるもの、即ち其の內に隱れたるメロデー也。是によりて存し、此の世に於て存すべき道理を有する所の、其の精神なる聯絡の內部の一致即ち是れ也。又曰く、吾人は云ふを得べし、凡ての極內部の物は和調的即ちメロデヂスなり。自然に彼等自身を歌に於て表言する者なり。夫れ歌の意味は深遠なり、誰かよく今論理的の語をもて音樂の吾人に有する結果を說明し得る者ぞ。吾人を無限無涯の緣に導き、又吾人をして其れに迄瞬間の注目を怠たらざらしむる所の不明、不可測のスピーチの一種！

倘ほ語を進めて曰へらく、凡ての深遠なる物は皆な歌也。兎

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に角吾人の中心の本躰は即ち歌なり。其の餘は即ち唯だ被包の如く、又殼の如きに過ぎざる也………ギリシヤ人はスフイーア、ハーモニースに喩ふ。是れ即ち自然の內部の搆造に付て、彼等が有せし感情にして、凡ての彼女(自然)の聲の精神及び表言は即ち全き音樂なりしなり。故に吾人は詩は即ち音樂的思想なりといふを得べきなり。之を考ふるもの即ち詩人なり。夫れ萬有の心は、爾若し唯だ之に達し得ば即ち到處音樂的にありつゝある也。と

是れ即ち衷心の源泉より混々として湧き出づる、人生自然の本躰を切言し盡したるものにあらずや。樂天が所謂る、文章は時のためにして著はすべく、歌詩は事のためにして作るべしといへるものなるなからんや。

然りと雖も人動もすれば、先づ著さんがために之を著はし、先づ作らんがために之を作る宜なる哉、神韻の存するなく、活火の其中に燃ゆるものなし、若し韻ありとせば神聖高雅の韻にあらず、若し火ありとせば不義不正を燒き盡すの靈火にあらず。見よ今代の作者の多數を。何ぞ吾儕をして鮑魚の市に入るが如く、嘔吐せしむるの甚しきや。

韶靈景樹翁云へるとあり。古の歌の調べも情とゝのへるは、他の義あるにあらず。ひとへの誠實より出れば也、誠實よりなれる歌はやがて天地の調にして、空ふく風の物につきて其の聲をなすが如く、何たる物として其の調を得ざるとなし。之を雲と水とに喩ふ、雲の在るや勝て涙にまがひ、垂りて花をあざむき、施きて霤となり、屯まりて峯をなす。水の行や亂て文ををり、堪えて藍をそめ、凝りて鏡をかけ、迸りて珠をなすが如き、百に千に變躰を盡すと雖ども皆な意ありて然するにはあらず。唯だ風によりて飄ひ、地に就て下れるのみ。彼言の葉も斯の如し。短きは短歌となり、長きは長歌となり、見るものきくものゝまに〳〵、其狀貌あらはれざる事あらず。是れやがて情の物にふるゝ形容也。さる中におのづから調なりて、巧めるが如く、飾れるが如く、其の奇妙たぐふべき物なきに至るは、天地のなかに斯の誠より眞精きものなく、斯誠より純美き物あけれは也と。

是れ即ち其の信仰箇條の基礎にして、彼が凡ての議論の縦橫なるも、彼が凡ての歌の高妙なるも、皆なこの誠實より發輝したるの光線なり。凝固したるの靈露なり。醱酵したるの美

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

謬あり。東西一揆何ぞ其の彼のヵ翁と相酷似するの太甚しきや。景樹翁も亦た一箇の詩人的預言者なる哉。

夫れ詩歌はよむべき者にして、作るべき者にあらず。之を作らんとす、故に作りごとを作るなり。既に之を作り假聲假色をなす、誰かよく之に感應して神飛び魂躍るの佳境に至るを得んや。笛鼓の調子節々調を破りて全からず、舞姫ありと雖も安んぞよく舞踏するを得んや。況んや鬼神をして感ぜしめ、天地をして動かさしむるに於てをや。

故に斯く誠實に感ずる者は即ち

何人もよく歌をよむべき也

歌人とて別に、一種の生物あるにはあらざる也。然るに陋頑なる師古者流否むしろ古人奴隷の社會は、一にも二にも古を倘びて、時代の變遷を辨ぜず、又時代と共に推移するを識らず、其愚憫れむべき也。故に桂門の所謂誰にても歌をよみ得べしとの信仰箇條は實にカーライル翁が所謂る、詩の脈管は萬人の心に存するものなり、といへる致を一にする者也。

景樹翁曰く

躰意は己がさま〴〵ならん事ともより也

されば序中にも、人麿赤人をはじめ、六人のくさ〴〵なるをも品隲ひて、其の得失をいへるならずやと。是れ即ち景樹翁の教育法也。所謂る歌人なる者を觀察するに、皆な自家の流儀、型式の裏に自由なる思想を幽囚し、臭味ある一種のおのが宗旨に、萬人をして改宗洗禮せしめんとす。今試みに桂門の先進を瞥見せよ。

浦春曙

伊勢島やいちしの浦のうららかに
かすみ果たる春のあけぼの

といふ題にて武備はよめり

いかに優美ならずや。長閑なる景色あり〳〵と見ゆ。然るに忠友は奇矯なること、春の野邊に若駒の鬣をふり立て〻、昂々塵を蹴たつるが如く

心ありて誰かは見らむ鯨とる
平戸の浦の春の明ぼの

寄獸戀

といふ題にて、久敬

いかにせん狄にはしかとたのみてし

其の秋だにも過んとぞする

然るに忠友は例の調子にて

逢みしはわはゆうらなるゆめなれど
獏の牙にはふれしとぞ思ふ

八田知紀大人は景樹翁の晩年に從ひし人なり。其の優美なることは

よしの山かすみの奥は知らねども
見ゆる限りは櫻なりけり

の一首にも知らる。

嘗て京師にて、當時の自稱大人等一日會を開き、景樹を招く、翁病をもて之を辭し、忠友を使たらしめたり。忠友師命を奉じて某の家に至る。到れば則ち强て坐に就かしめたり。時に畵工坐にあり、筆を揮ふ。畵成れば則ち、之を頒つ。之を得れば則之を賛す。忠友敬禮之をうかごふ。一人あり、忠友に與ふるに松樹の下に蛇蟠るのかたを以てす。盖し難中の難物として、何人もさきより辟易して、手を下さゞりしものなり。忠友之を强辭して、聽かれず、乃ち筆をとりて

松が枝を千年とたのむ山鳩の
ねぐらの雛やねらひそめけむ

當日の壓卷なりしといふ。

又熊谷直好大人なる一種の歌人あり。常に力ある歌をよむ人なり。夫の八田大人とは全く他路に向へるの流なり。前者は浦のしほ貝を見るべく、後者は忍ぶぐさを見れば則ち明か也。然れども直好を學むで、成らざれば虎を畵きて狗をなすもの、知紀を學びで成らざるも、鵠を刻みて鶩に類するを得べき歟。

池袋社中の案山子舍

にても桂門の信仰箇條によりて、池袋大人の敎を施すや、常に誠實を主として、語調にあらずして、衷心より流れ出づる調音を主とす。故に今や其の門に在る者、京都にて社中第七に至り、女社亦第五に至り、又別に新なる女社あり、東京に第一社あり、將さに第二社を更に出さんとす。其他地方に散在して個人的に、或は社中を組織するもの實に無數なりとす。是れ皆な其の主義を守り、其の精神を頒つものなり。

池袋大人の敎育主義

固より東塢翁の敎育法に異ならず。勉めて一個の摸型の中に

生擒せざるに在りとす。然して其後進の歌を批評斧正するや、よく其急所を刺して遺憾なし。又後進の自ら安からざる所一削一加して、忽ちに調子を整齊する妙なりと謂つ可し。毎週一次詠出して、半歳位に至れば既に稍調子にかなひ、語格社會の頭領株、自稱大人等の右に出づるものなきにあらず。例へば京都社中の一少年某氏が詠に、早春川

大井川かすまぬ月のかげ見えて
水のひびきの寒き春かな

又梅の歌に、同じ人

我が山の峯にのこれる白雪の
寒き月夜に梅が香ぞする

朧夜の月ほのぐらき岡の邊に
雨うちけぶり梅が香ぞする

又同じ社中の某氏、月前鹿

山のはにかくれんとする月かげの
まどにはさして鹿の音ぞする

又同じ社中のなにがし氏、春山月

咲く花の匂ひを空にみするかな
よしのの山の朧夜の月

同じ社中の某氏、春曙

遠山にかすめる月は見えながら
花にしらみて夜はあけんとす

同じ社の某氏、初冬

二つ三つ殘る軒端の山柿に
とまる烏のなく音寒しも

同じ人、寒月

在明の月は軒端にかたふきて
氷柱にかゝるかげの寒けさ

東京の社中某孃、遲日

ひとりのみ花見てくらす春の日は
けさも昨日の心ちこそすれ

同じ社中の某氏、春夕月

春雨のつゆは柳に見えながら
のきばにあすむ夕月のかげ

又某の孃、埋火

おもふとち毛いとなみつゝまぬくめの

ほとりに語る宵のうれしき
妻戸もる在明の月のかげさえて
白くわけゆく閨の埋火

是れ皆な乳臭青衿の子女少年が僅々の間に在りて、よみ得たる所のものなり、決して夫の語格に拘泥する徒のよくよみ出づる所に在らざるべしと信ず。其の中優美、高雅、深趣、遒勁なるものあり。是れ畢竟

敎育法の如何に在り

といふべし。歌を學ぶに當りては。特に其の師を擇ばざる可らず。一年學ばんよりは、三年師を求むるを勝れりとす。池袋大人常に曰く、始めにコシタるものは實に致方なしと。

吾儕今社中の事を論述せんとするに當りて、病魔命を奉ぜずして、意央ばを盡さず、世短意常長の感に堪えざるものあり、右擧げたる所のもの近時の社中にして、京都の第一、第二「第三社中の詠は多く、大人の著なる、淺瀬の波に見ゆれば則ち、讀者之につきて見ば、優美躰、有力躰（假りに名ず）各其の詠者の特質に應じて、開發せられたるを知らむ。

案山子の舍社中

旅情　　北里

、、かぎりなく淋しきものは故郷の夢見し夜半のねざめなり鳥

折にふれて　　仝

、、さらぬだに物おもふ旅の草まくら結ぶ夢路に五月雨ぞふる（露けき）

別離　　竹内

、、胸の中に思ひみつれば中々に一言だにも云れざりけり（言の葉の）（出ぬものにさりける）

評　直接前の心もなし

仝

、瀧つ瀬のむせぶ思ひの涙川せくもかなしき今朝のわかれは（せきあへぬ）（路）

人事如夢　　島原

、人の世はゆめの浮橋あやうしとよる年波をかけてこそしれ

評　老後述懐なるべし

無常　　竹内

世の中は

、大井川流るゝ水に舟うけて風吹ぬ間の花をみるよか（見なりけり）

池袋丈人に面會したる嬉しさに　　市村

、東路の塵を清めて桂川うれしくみつるつきのかげかな（あらひ）

評　月かげさは恐縮なれどみかへしなれば
うき雲のはるゝ間もなき月かげはながむる人もわびしかるらん

雜錄

沙翁曲中の戀人（其一）

城東生譯

凡そ人は戀人を愛する者なりと」エマルソンの言ひしは誰も好く知る處なるべし。戯曲の泰斗シエクスピア翁好で戀人を捕へ其眞實無垢なる戀を寫せる事數多し。而も其之を寫すや誤れるを誤れりとなし笑ふ可きを笑ひ。敢て過賞する事なかりしは曲中時々戀人を嘲罵するの句あるを以ても知るべし。之を通觀すれば自然の戀の有樣全曲に活動するを學ぶべし。翁は古の人が戯れて戀は盲なり戀する者は己が爲す事の愚なるを覺らず」など言ひたる事を以て止むに非ず進んで深奥なる境に侵入し、其眞狀を寫し出せしなり。

如何に不注意なる人と雖も翁の曲を讀まば其戀の正當にして賤しからざるを認むべし是れ翁が單に戀のみを寫さずして是と共に人生の他面を示し、戀に付するに他の貴き性質を以てせし事などに依るならん。換言すれば翁の寫せし戀は今の人の寫すが如きに非ずして他の情緒と併なひて寫せし者なり。例へば「マルチャント、オブ、ヴェニス」の曲に於るポルシヤは啻にアントニオを慕ふ心の深きのみに非ずして多くの價値を備へたる婦人なり。又彼のケートが娘、ブルータスが賢妻ポルシヤを見ば此の事の僞りならざるを覺らん。

シエクスピアは又常に客觀的に戀を寫し、心理的の解剖を避けて事實に見るが如くに顯せり、左れば其對話又獨語を聞く者も倦厭を生ずる事なし。今の世の人の之を寫すや主觀的にして、只戀を理論の上より示せしに過ぎず、此れ翁の大いに他と異なる所たり。又其戀人の品格ありて賤しからざる由緣は、翁が決して年若き戀人を寫さゞりしに由るべし。實に翁の寫せしは皆成年に達せし人にして。ロザリントの戀人オルラント、シャイロックの娘ジェシカと共に欠落せし若者の外は盡く成年の人たりしなり。イモージェン、ロザリンド、ポルシヤ、オフエリア、などの名を聞けば誰か之を年若き娘と思はんや、必ず高き品格を備へたる成年の婦人とこそ思ふならめ。

沙翁の戀人は互に慕ふべき人を慕ふて敢て他人の妻を戀ひ、或は他家の娘と欠落するが如きの行なかりき。其理蓋し當時

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の社會が斯る不正の事を容れざりしのみならず翁の眼光に不潔の戀の影せざりしに基くか。今の社會に於ては道德地に落ちて不正の事も左まで怪まざるに至りしかば從て文學者の寫す戀も不潔不正のものとなりしは、悲みても尙餘りある事なり。殊に近世彼の忌はしき佛蘭西風が社會に流布せしは其原因となりしなるべし。嗚呼近世の人戀を全く誤解せし時に於て故シェクスピアの如きが之に對して斯る正當なる見解を有せし事は吾等の極て喜ぶべき事ならずや。

次に批評家の注意する處は翁が只戀人の心性のみを寫し決して容貌を記さず、一に讀者の想像に任せし事なり。稀に其形容を記せし條下なしとせざれど夫は特種の時に限れるが如し要するに容貌の良不良は、全く俳優の務に一任せり故に之を演ずる者の心勞は言ふも更なり、吾等讀者も大ひに困難を感ずる所なり。只此の困難より少しく免れしむる者は畫像なり。畫伯は古來の言傳に依りて適當なる肖像を畫き出せり其一二を見れは、ヂュリエットは丈け低く、イモーヂェンは中丈にしてロサリンドは高く戀人オルランドに接吻するに躰を屈めしならんと思はる。クレオパトラに至りては務めて其卑猥なる態狀を寫すを避けたり而も尙其害毒ある人品は好く吾等の眼に映ぜり、之に反してイモーヂェンは貞潔なる處女にして恐くシェクスピア以外にも又シェクスピアの他の著書中にも斯く淸き美しき婦人はあらざるべし、之を以て翁が理想せし婦人と言ふも過言には非るべし。

曲中の人物を畫きしもの、モール氏のハムレット及ひオフェリアの像に如くものなし、蓋し斯くの如く其情緖の有樣を滿面に顯したるもの他に求むべからず。ハムレットが狂亂せる精神其面に溢れ出でオフェリアの面に映じ兩々相對して偉觀を成す、其悲むやオフェリアは深遠にして靜、ハムレットは强大にして動、彼は數奇の運命に沈みつゝ是は父の仇を報ゐんが爲め、其狀こそ異なれ兩個は只悲壯の內に在るを見るのみ、而も此兩個互に慕ひつゝ其悲壯の內に於ても尙燃へ立つ戀の情火燎々として明なるを其容に見るべし、讀者若し注意せざれはハムレットがオフェリアに對する戀を觀過する事あるべし、彼思ふ戀せんか仇を報じ難し仇を報ぜんか戀し難しと、斯く復讐の念と愛情とは彼の心に結びつもれつ終に彼を言ふ可からざる悲の中に陷れたり。彼れ若しオフェリアを慕

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

はざりしか彼は直ちに仇を報ゐ得しならんに戀の妨ぐる所となり或は戀人の父を殺し或は其兄の怨を買ひ果ては戀人までも死するに至りて彼が心は哀苦の極に達せり。斯くて王を殺すと共に戀の上より自らをも殺さゞるを得ざるに至れり。此れぞハムレットが心中の戀の爭闘なり。

總じて婦人は果斷の力に乏しと言ふは一斑の評となれり。然れど今返りてマクベス夫人を見よ、マクベスが國王弑虐の企圖なる中心は此の夫人に在り夫人のマクベスに對する戀は終に自ら進んで此の大惡の共謀者たらしめたり、誰か其力なしと言ふ。ポルシヤなくはブルークスも吾等が今考ふる如き優物たらざりしならん、之を以て翁の眼光千載の後を達觀せしを知る翁は悉く不潔の女性を掃ひ去りて賢明其夫に適するの婦人を寫せしなり。否、戀を寫さゝりし「キング、リーヤ」曲中のコルデリアに至りては男性に勝る万にして、而も其の女性の淑徳を失はざるものなり。

何故老偉人

グラットストーンは健康なる乎

最大多數の最大幸福ともならんと思ひ此處に英國の總理大臣グラットストーン翁の强壮なる理由に付て、英國のさる醫師が語りし事を記さん。

醫師の曰く、翁は當代に於て最も名高き人なるが其身躰よりするも亦尤も强壮なる人なり。其胸膈を始め機關凡そ大なり、其八十二才の時の働は恰も通常の人の五十才位の力ありき。翁若し過度に働きしと思ふ節は直ちに寢室に入りて休むを常とす此れぞ翁に取りての一大良藥なり。凡て眠は人の元氣を回復するものなり。翁は如何なる緊急事件を調査する事の差し迫るも、定の時來れば直ちに之を棄てゝ必ず床に就く。此れ又翁が矍鑠たる原因の一なり。人若し深く睡眠に注意せば己を益する事多からん。

翁の肺臓は大あり從て多量に新鮮なる空氣を要す、故に日々戸外に出でゝ斧などを取り活潑に運動するを怠らず。冷水浴は毎朝欠す事なし。食するに好く咀嚼すれば消化滯りなく胃は常に健全なり。事務を取る頗る整然、自由黨の内閣に於て、或は事務所に於て常に秩序を以て働く故に、少しも混雜を感ずる事なし。喫烟は嚴禁し飲酒は身躰の爲にはあらねど、習慣の上より稀薄なる葡萄酒を用ゆ。翁の記臆はスラット氏も言ひ

たる如く恐しき程の者なり。翁と論ずる者は屢々此の強き記臆に苦むと云ふ。翁の如き記臆と判斷力とを有する人は、少なかるべし。斯く記せば翁が大人物にして其活潑なるの理由何れに基くかを知り得るならん。之を要せば、次の三條に言ひ盡すべし、第一、身躰の健康。第二衛生殊に睡眠の適度なる事。第三事務を扱ふに秩序なる事となす。翁の如き身躰と精神とを有する人にして翁の如く勤めなば、其成功も亦翁の如くなるべし。

茶話會

（七）子供にきらはれる法、すかれる法

ゆ　ろ　子

『おつかさん、これ御覽なさい、奇麗なこと』六七歳の可愛らしき女の子が花束を持つて母のところへ來ました。母は針仕事をして居ましたが、一寸ふり向いていきなり『なんだね』お前は花の死骸をもつて、何が奇麗ですかほんとにいたづら子だよ』と申ました。女の子は今日野遊びに行つてすみれやたんぽゝやれんげがあまり奇麗に咲いて居りましたので、それを摘んで花束をこしらえ、家へ持つて歸つて、おつかさんをよろこばせ、而して之れを一輪いけにさして、オルガンの上にでも飾つて置こうと思いましたのに、母の案外の語ばに一方ならず失望致しました。

これから此の女の子には、どんな奇麗なものを見、どんな面白い事を聞いても、それを母に話して、よろこばせやう、樂しませやう、同情を表してもらわう、と云ふ心がなくなります、それがだん／＼長じて色々の相談事なども母に云はぬやうになり、母と娘との間は日に増し疎遠になるばかりです。世の母たるものはよく／＼氣をつけて、こう云ふ時には娘の心を察してやり『オヤマア奇麗なと、わたしの様に内ばかりに居るものは、ほんとに目がさめるやうだ、氣がせい／＼するよ、お前それを一輪いけに、さしてオルガンの上に飾つてお置き』と十分に慰さめの言ばを與へて同情を表してやらなければなりません、さすれば娘の心はどんなにうれしい事でせう、これからは見るもの聞くもの皆母に話すやうになり、おのがからだを安心して母にまかせ、母を敬まひ尊とび親しむの心を起こします。

世の中に何がうれしいと云つて、こちらより人のところへ同情を求めに行き向ふより眞實なる同情を賜はりたる時程、うれしいとはありません、而してこの時、其人の爲めには己が命をも獻げて惜しくないやうな氣が起こります、他人の間でさへもそーですもの、まして親子の間はほんにどんなだかしれやしません。

（八）女の謹み

山月子

謹みは女の美徳なり、彼の『心だに正しからば』など、言ひつゝ、其言語、擧動等に構はぬ人ほど氣の毒なるはなし、人世誠に知己に乏し、如何に立派なる心を持つも、容易に人に知られぬものなり、まして婦人の無頓着なる言語、不作法の擧動などは、多くの人の誤解を惹き、思ひも寄らぬ悪評を蒙むるものなり、惜しき事此上やある、パウロは『神の我儕に賜へる靈は臆する靈に非ず能と愛と謹の靈なれば也』といひ、『愛は非禮を行はず』といへり、余は心にもなき一種の外形的謹愼を嫌ふと甚しと雖も、而も神常に我儕の上に在すの信仰を有し、人の靈を敬愛する心より、自然に出る謹を大なりとす、重しとす、貴しとす。

家政

育兒談

畜麴子

去七月宮城縣仙台に於て開かれたる、大日本私立衞生會第十次演說會の時、育兒に關し山形仲藝氏の演ぜられたる大意を聞き得たれば左に掲ぐ。（大日本私立衞生會雜誌第百十一號參考）

二才以下の乳兒を養育するに、自然養育と、人工養育の、二法あり

自然養育として小兒に榮養を與ふるには、生母の乳を給すると、乳婆の乳を給すると、又之を里子として他人に預くるとの別あり。然ども小兒の食物として最も良しきは、生母の乳に若くものなし。生母の乳は實に小兒が天與の食物にして、宇宙間之に代用して同じ効用あるものなからん。去れど乳房に疾患あるもの、又疾患はなきも、乳腺の發育全からずして乳汁の十分に出でざるもの、乳頭の形小すぎ、又は結核神經白血梅毒傳染性の諸病に罹りたる塲合には、止を得ず母の乳を給すると出來ず、倘其母の妊娠したる塲合、月經の爲め小兒に下痢ありたる塲合に於ては、亦乳を給するとを見合さゝ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

るべからず、此等の障りのなき以上は、是非とも母の乳を以て養育すべきは、實に天理自然の道なり、然るに近來濫りに牛乳の滋養を説て、大切なる母乳を廢せしむるが如き、其害の甚しきは、猶歐米に於て、分娩して臍帶を絶つと同時に、母の職分を了りたるものと思ひ、生兒を直に保母に托して人工養育法を施すが如し。其害言ふに忍びざるに至らんことを恐る。

抑も産婦の始めて給する乳汁の中には、(まくり)に等しく下劑の効ある一種の成分を有すれば、産后直ちに乳を與ふる時は、小兒に滯る汚きものを下すゆへ、人工の下劑を須ず、倘生后直に乳を給すれば、乳房に血行の働きを強め、乳汁の量を増し、母の爲め子の爲め一擧兩得と云ふべし。

猶亦乳を與ふるとも、小兒の強弱により、強ければ多く弱ければ少なく、平均一晝夜六七回を可とす。

且亦乳放れの事も、成るべく永く母乳を與へて可なり、兒の發育するに從ひ、終には母の乳のみにては、榮養に不足を告るに至り、自然に飢餓の摸樣を示す。此際には母の乳を與へつゝ他の滋養物を給すべし。但し生后十ヶ月以内は、此に牛乳を用ふるも健康なる、乳婆を傭ふて其の不足を補ふを可とす。小兒の養育を婆乳に托するにつき、是が選び方を左に概説す。

(一)乳婆の躰格は健康なるべし。黴毒、結核、白血、貧血等の病症あるもの、及び血統上遺傳病あるもの等は、嚴に之を避けざるべからず。

(二)乳婆の年齢は十八歳以上三十二歳以下の間とす、此年齢前后の者は乳汁の成分、小兒の榮養に適當せざるの點多し。

(三)乳婆の分娩期は之を托したる兒の出産期と、略ぼ同一時ならんことを要す、早きに失するも、遲きに過るも不可なり。

(四)乳婆の乳房發育如何を撿すべし、身躰健康なるも乳房の發育不充分なるものは、分泌の機能鈍く終に乳量を減するの恐れあり。

(五)其乳汁は純良なりや如何、醫師に就て化學的若くば理學的の撿査を經ざるべからず。

人工養育法に用ゆる榮養品中、最も良しきは馬乳とす、然ども之は得るに難し、次に驢乳とす是亦本邦に於て望む可らざるなり、故に今日價低く且つ得易き牛乳を一般に用ひらるゝ

に至れり然ども牛乳亦害なきにあらず。

（一）牛乳は人乳の如く其乳房より直に小兒の口に送ること能ず、一旦之を器に採り更らに吸乳器の類を以て、兒の口に送ることなれば其間に幾分かの塵埃を混じ、又搾取後長時間を經過するときは、酸敗を起し之を小兒に與へたらんには、或は下痢を來し胃を害し腸を損じ。不測の害を招くことあり。

（二）牛乳を賣る者の內に、互に其價を安くして得意を値さん爲奸策を施し、乳牛に食鹽を與へ渴を呼び、多量の水を飲ましめ亦或は牛乳中に米汗汁を混入するものありと云ふ、而して其害を受るものは、牛乳飲用者に在れば世の牛乳を以て小兒を養育するものは、殊に注意せざるべからず。

（三）動もすれば病牛の乳汁を賣捌くものあり、斯る牛乳を其疾患直に人躰に及ぼすことあり、又病牛に與へたる藥品の乳汁中に混じ來り其害を受くることあり。

（四）又肺結核、腸窒扶私、其他恐るべき傳染病菌を乳汁中より傳播せしむる危險あり。

牛乳を用ゆる人工養育法は、誠に容易にして且つ頗る輕便あるが如きも以上の危險あることを想起せば思半に過ぐべし。

家庭の養鷄　（三）

巢鷄撰の擇法

（一）巢鷄は餘り肥大なるものは、適せず殊に手初めの人には一度孵化したる巢鷄を擇ぶべし。最も巢鷄に適當なるは、腹部に柔かき羽毛の多くある、足の小さき巢念の强きものを良とす。烏骨鷄の如きは最とも可とす。又た其躰量は重くとも、ブラマ、コーチン、の如きは性質溫和にして人に慣れて靜かなれば、亦巢鷄に適す。

（二）巢念の有無を試むるには、先づ鷄巢に二個程惡敷卵を一晝夜ばかり抱かしめて、巢鷄の冷熱を見定め、然る上種卵を抱かしむべし、かくすれば巢念弱きものは暫時卵を懷き居るも兎角外へ飛出で、種卵を冷却せしめて、遂に貴重の種卵を腐敗せしむ。

抱卵法及び巢鷄の取扱　（上）

（一）巢　は塒又は密柑箱に、濕氣を帶びたる土を二寸斗り入れて、其上へ羽蟲の豫防に硫黄又は石油を程よく散布すべし、斯くすれば巢鷄の躰溫にて、硫黄亦たは石油の氣發して、

決して羽蟲などの生ずるとなし。又其上に柔かき藁を半以上まで敷き、中央を凹にして百姓家にて用る、鍋敷様の物を藁にて楕圓形に造り、其中へ亦藁袴を入れ總て卵を脇へ洩れざる様にして、抱卵すべし。

（二）種卵　は成べく新らしきものを撰び、巣鶏の躰格に應じて七個より十四五個までを、一度微温水にて洗ひて、楕圓形にならべて抱かしむべし。

（三）巣鶏　は毎朝巣より一度食を求めに出づれば、其時には飼箱に多量の米麥と、清水等を供へ置き又欠さず青菜を與へ、亦た軒下には砂を供へ置きて巣念に砂溶せしめ、猶亦時々肉類を與ふべし。又巣念の強きは二三日も巣より出でざれば、かゝる時は巣の内へ米麥青葉等を供へ置き、亦巣箱の内に針を打ち清水を竹筒に入れて、轉ぜざる様に懸置べし。

こがねの砂二つ三つ

女護島兒集

（一）手輕西洋菓子の製法

寒天をトコロテンに製する水加減よりは、水の量三分一を減じて、其替りに牛乳を加へ、上等の白砂糖を入れ適當に煮て之を直ぐ篩で越し重箱などに移し、是を水の入らざる様冷し置き固まりたる時分に、好みに隨ひ切りて食すべし。來客などに出す時は染料を加へ、花形などに造れば一層美なり。

（二）生魚の腐りを止むる法

生魚を遠方へ送る時、其送中腐りを止むるには、魚類の腹を竪に割きて、腹の中にある雜物を殘らず取り出し、其中へ消炭を詰めて、之を笹葉などにて巻きて送らば、腐敗を止むべし。且つ之を取扱ふ時なるべく水にて洗はざるを善しとす。

（三）汚き水を清くする法

水の濁りたるを清くするには、水桶に明礬の粉を入れて、能く攪拌し置ば、穢なき物は桶の底に沈みて水は清くなるべし、明礬の量は手桶一盃に一匙餘りなるべし。

（四）毒虫に刺れたる時の藥

悪き虫に嚙れたる時は、直に重炭酸曹達を溶て塗付くべし。

（五）糠味噌漬の酸味を止むる法

糠味噌桶は油樽の古きもの、又は味噌桶、醬油樽の古きを用ゆるを可とす。糠味噌に漬る野菜は何種を問ず、一日程日光に干して后漬る時は、水分を減じ甘味を增すべし。亦漬る時は必ず桶底より攪拌して、其度毎に少しの鹽を投入すべし。

批評

(117)〇國母論

丹靈々居士の著にして八十七頁の小册子なり。章を、序論。婦女は人類の母たるのみならず國家の母たる所以を論ず。天下の形勢は婦女の性質に伴れて變遷あるとを論ず。婦女の不德になりたるの原因を論じて併せて小說を讀み演劇を見るの利害を論ず。日本人全躰の特性と日本婦女の特性美質を論ず。日本婦女の特性美質に適したる宗教を論ず。日本婦女の和歌を讀むべき必要を論ず。日本婦女將來の敎育法を論ず。結論の十に分つ。保守に僻し、文明の大勢を知らず、女大學の敎育を再たびせんとする誤見、並びに謠曲の作り事を眞として白樂天昔し日本に來たりなど記す誤謬も少なからねど、文章の麗らかにして氣管ある、且つ一片止みがたき慷慨の誠あるとは讀者の重んずべき所ろ也。

〇乳肉新報

乳肉新報は土手三番町の乳肉新報社より發兌し、去十一日第六號を出し毎日曜日を定期とす。乳肉にかゝる一切の事を記し甚はだ益ある新報なり。

摘要

〇生命保險

去年七月より本年七月に至る迄一年間の生命保險會社報告を見るに、同社現在の積立金は十万圓の株金の外に、三十六万三千八百十九圓二十九錢四厘あり。目下、保險中の人員は、一万三千〇七十五人にして、之を國別にすれば、武藏、攝津、越中肥前、伊豫、等尤とも多く、隱岐、對馬、壹岐、佐渡などの島國を初とし、三河、石見、河內、志摩、上總、若狹等に尤とも少なし。又、職業別にすれば、商人尤とも多く、次に、銀行會社員及び官吏、無職業の人を多しとし、軍人は意外に少なく、醫師敎員は意外に多し。

寄書

〇野邊の白菊　（すきもて白菊をすきかへしければ）

ロバアト　バアンス氏作
早稻田　ふみ子譯

(1) 赤くふちごろやさ小花
小さき莖も土くれの
なの愛らしき玉蕾
(2) 汝のそばのぶちひばり
迎ゑんさてや喜びて
露の深みへなさけなく
(3) 膚をつんざく北風は
吹きすさむれど快よく
やさしき形あらわして
(4) 庭に植たるはでの花
さるになはこれ土くれや
かり株殘る冬枯の
(5) 辛くも纒ふなの衣裳
高くもたぐろなの顏は
されど今はやすきの爲
(9) 田舍に育つ花娘
淸き心の戀の道
蕾の如き無邪氣なる
(7) 浮世の涙を推分る
涙風包む灘の上
遂に藻屑さなり果る
(8) たくみのわるやさかしらに
なげきの淵の底までも
浮世のうきに惱むなる
(9) 菊をば歎く自らも
亡びのすきは用捨なく
其日のくろも遠からじ

さちなき時に予に遇いぬ
中にひしぐぞせんもなや
すくわんすべもはや盡きぬ
茜色さす東雲を
飛び立つきわに汝をば
踏みつぶせしにあらざるぞ
はやくも芽ざす產地をば
產れ出でにし土のゐに
あらしの中に顏もたぐ
木蔭垣根に守らるゝ
小石の蔭にわびずまひ
野原を獨り飾るなり
日に向く胸は雪のごさ
はでにあられごあごけなし
床は破られ身も倒る
課らるゝされは白糸の
遂には塵さ汚れ果つ
乙女の運もかくあらん
心の揖にうとくして
光りもうすし運の星
詩人の運もかくあらん
淨土の外は賴邊さへ
沈めらるゝぞ淺ましく
君子の運もかくあらん
此運命に外ならじ
胸をひしがん畦の中
これぞ我身の運の果て

女報

可愛子編

●北白川宮妃殿下　同殿下には去る九日午後八時新橋着にて、逗子より歸京あらせらる。

●常宮周宮兩内親王殿下　去る十三日午前七時廿五分栃木縣日光御發、午後十二時廿五分上野着滊車にて御還御あらせらる。

●純子女王殿下　去る十二日より華族女學校へ御入學遊ばされたり。

●佛國政府奉贈の置物　閑院宮載仁親王殿下の御結婚を祝するため、今回佛國政府より「セーブル」陶器製神女の置物を奉贈されたる由なるが、右は非常に珍奇の品にて、佛國代理公使は過日荷造の儘同宮邸へ持參し、殿下に接見の上三重の箱を打開き、恭しく奉呈したる由。

●和蘭國女王陛下誕辰　八月三十一日は同陛下の御誕辰祭に付、各國公使同國公使館に至り賀詞を述べたり。

●島津令孃の婚儀　嶋津公爵(忠義公)第二の令孃光子は、今般舊松江藩主松平直亮氏と結婚の約整ひ、來月中旬頃入輿の筈なりと云ふ。

●築地十三番海岸女學校々長ミス、パード氏　は年會まへより病に罹りたりしが、八月三十日午前二時死去したり、同日午後四時青山墓地に埋葬す。(護教)。

●女子神學校雜誌發行の計畫　頃日正教本會附屬女子神學校にては、首に各地教會の婦人會を益せんとの事より、女子教育の一雜誌を發行せんと計畫し、既に其趣意書を印刷して各地正教會に配布せる由、正教新報に見へたり。

●女子の教育　我邦の女子教育策に就ては、教育家中に議論少からざりしも文部の當局者は見る所ありて、曩に尋常師範學校の規則に改正を加ふるや、女子部の教則をも改正し、又女子部を置くと置かざるとは府縣の事情次第に任する事とし、且つ學科の程度を定め、教授の方針を示したるものを見るに、單に、女教師養成の目的のみにあらずして、稍や女子に高等の教育を授けんとするもの丶如くなりし、府縣の尋常師範學校に於ける女生徒教育の方針にして、既に斯くの如くなりしかば、文部本省の直轄たる女子高等師範學校の教授上にも影響を及ぼし、現に明二十六年度に於て高等の學科を教授する教官增加の必要を生じたれば、來年度の同校經費豫算中俸給及諸給の項に於て、前年度より金額の增加するを見るべしといふ然れども此の高等科教授なるものは、修身國語等要するに女子の普通教育上に必要なる學科にして、決して修飾的の學科を增課するものにあらず、左れば曩に文部本省より發したる内訓の趣旨に基きて改正したる同校の教則に依るも、英語の如きは既に之を必須の科目中に置かずして隨意科目となしたる由從て同校中に在る彼の高等女學校の如きも幾分か教授上の面目を改め又附屬の女子小學校にも改良を加ふる所あるべしと云へば、今後の女子教育上には幾分の變更を見るなるべしと云ふ。

●宮崎鷂肋孃逝く　孃は目下淸國天津に於て松昌洋行と稱する商店を開設し居る宮崎駿兒氏(元交際官試補)の一妹なり、幼にして怙恃を失ふ、時に米國の女教師スクーンメーカー氏女校を築地に開設す、駿兒氏偶々淸國に漫遊するを以て、孃の教育をメーカー氏に托す、是れ孃が未だ十歳に達せざる時とし、其後スクーンメーカー氏に代りワトソン氏來り、大に孃が學事に穎敏にして且勉强なるに感じ、いと心を込め教育せしを以て、孃が十九年の春終にアメリカン、アカデミーの學科を卒業し、其翌年和漢の二學科をも卒業し、間もなく同校の教員に選擇せられ、其後福岡縣の女學校教育に從事し、又米澤女學校の教師となりたり、其後教師ワトソン氏米國に歸るに際し、同航して米國に至り、アイチワーの大學に留學し、該大學中にても頗る高評を博し、近々卒業せんとするに先きだち、本年一月より肺病に罹り、既に危篤に至りしも、一旦藥効少しく見へしを好機とし、去る五月歸朝し、爾來怠らず樫村國手の治療を受け居りしが、客月廿五日竟に不歸の旅路に赴きしは、いと便なき事にて、我同胞の爲め未來の良母を失ひしは實に惜むにも猶餘りあり、右の訃音天津なる實兄駿兒氏の許に達せしかば、氏の哀傷大方ならず、早速歸京したりといふ。

●日本婦人會と京都婦人工藝家　日本婦人會にては、世界博覽會の出品製作を京都の婦人工藝家へ囑托せん爲め、其人撰方を同府知事へ委任したるを以て、千田知事は其人名を撰定して、同會委員長毛利公爵夫人へ廻答せし處、去る四日同會長より其人々へ製作を囑托し、且つ一箇に付平均六十圓内外にて尙ほ其圖案を製出する樣照會ありたるよし。

●基督組合教會關係の女學校　目下我邦に於ける基督組合教會及びアメリカン、ボールド(傳道會社)と、直接幷に間接に關係を有する女學校は左の如くなりと云ふ。

名稱	設立年月日	位地	教員	生徒	設立以來卒業生
同志社女學校	明治九年	京都	八	八八	二九
看病婦學校	同一九年	同	八	二〇	二七
英和女學校	同八年	神戶	九	一三五	六九
女子傳道學校	同一七年	同	六	三二	二四
松山女學校	同一八年	伊豫	七	三六	
梅花女學校	同一一年	大阪	一二	一七五	二九
順正女學校	同一三年	高梁	四	一〇一	五〇
山陽女學校	同一九年	岡山	七	六四	一八
新潟女學校	同二〇年	新潟	六	五〇	九
鳥取女學校	同二〇年	鳥取	八	六〇	九
熊本女學校	同二二年	熊本	七	六五	
共愛女學校	同二二年	前橋	五	二三	

●工女の賃金に關する協議　山梨縣甲府市の矢島組と草薙社の人々は、過日公園地の望仙閣に會合して、六月以來の工女賃金を一定せし筈なるが、此は昨年中は三掛半の割合なりしが、本年は繭の立方惡しきと生糸の好況なるに依り、多分四掛(糸一揚げを四十目と假定すれば其四掛即ち十六錢)位の決定ならんと云ふ。

●婦人義捐會　信州上田の基督教會婦人の團結にして、毎月一回其例會を開き、一日の勞力を捧げ、其の利益を貯蓄し、慈善事業の万一を助けんとす、目下は重もに二重狀袋を製造することなるが、其の熱心嘆賞の外なし。

●京都婦人教會　同會は去る七日午後一時より下京區五條西洞院西入長覺寺に於て例會を開き、赤松連城、江村秀山、吉谷覺壽、英立雪等出席して演說せし由。

●兩女史の義捐募集　備中國賀陽郡惣社村、守屋治平次女小松、勸誘守脇宇吉女マスの兩女は、各地方水害罹災者の慘境に陷れるを見て最と憫に感じ、率先して學校生徒朋友等に就き懇に勸誘し救助義捐金を募集し居れりと、山陽新聞に見ゆ。

●秋田婦人學會　同會は八月二十五日尋常師範學校附屬小學校講堂に於て、第三回總集會を開會せり。

●海南女子の風儀　下浮穴郡邊にては、五六年前以來女子の遊藝非常に流行し、各家競ふて歌舞を習はせ、中產以上の家にては別に相當の師匠を雇ひ入れ、晝夜を分たず打ち騷ぎ、宴席などへは美服を飾り立つゝ召し連れ行き、藝妓同樣に歌舞せしめ、此の上なき名譽の如く思ひ、之に反して學校教育女子手藝の如きは舍ひて問はざるものゝ如き有樣なりしが、此の一兩年以來は頓に其の狀態を異にし歌舞三絃の類は良家子女の弄すべきものにあらず、女子の本務は溫良優美の氣質を養ひ、裁縫其の他の手藝を習練せしむるに在りとの觀念を起し、頻に家庭と學校との教育を重んじ、現に這回發布せられし改正學舍尋常小學校の隨意科目となし居る裁縫科を、成るべく各校に設置して女子をして、氣質の鍛練と共に手指の練習をなさしむることとせんと計畫し居れりと云ふ。(海南新聞)。

●婦女の紅白粉を施すを禁ず　愛媛縣宇摩郡川之江警察署寒川分署にては、銳意猥褻の風習を改良せんと企て、此程終に所轄內各旅籠屋及び料理屋等に限り、其の家の婦女の紅白粉を粧ふを嚴禁したり、中之庄村の某旅亭の下女は斯る窮屈なる所には長居は無用なりと一同袂を聯れて歸鄉したりとなん。

●中津の遊廓は斷じて許さず　八月廿六日の豐州新報に曰く「我在京の社友は先日來中津の一問題なる遊廓設置のことに就き岩崎知事に質したるに、知事は斷じて許可せず請願するも直に却下せんと答へられたりと快哉〳〵、以て岩崎知事が對怪物の方針を見るべし西川君たるもの野手君たるもの勉めざるべからず」云々と。

●妻の肝を屠りし者の裁判終結　實母の眼病を醫せんとて妻の腹を割き肝を屠り出したる、大分縣速見郡杵築村澤野儀平は、其後大分縣地方裁判所に於て豫審中なりしが、豫審に於ては故殺罪と認め、重罪公判に廻したりしが、此程裁判終結、重懲役九年に處せられたり。

●女子職業學校設置の計畫　北海道札幌區には各專門の學校あれども、女子職業專門の學校は、先年廢校せしより、再興に至らざるが、二三の有力者は新に女子職業學校を創立せんとて、目下奔走中なりといふ。

●北海道函館に於ける女學校　函館の地は札幌より一層宗教の盛大なる處にて、日本基督、聖公兩教會の外に、新教に於ては函館美以教會あり、舊教に於ては希臘教もあり、天主教もあり、佛教も亦盛大なり、美以派は遺愛女學校を有し、聖公會は靖和女學校、天主教は聖保羅女學校、希臘教は貧民學校、佛教は某々の二女學校など、又盛なりといふべし。

●高島女學校　後志國小樽港には同致女學校といふものありて、昨秋新潟縣より本間榮女史を招聘し、當年初夏の頃には餘程盛運に向ひたり、元來此の學校を重なる關係を有する人々は、多く僧侶及び佛教徒なれば、最初女史との契約は無宗教主義(宗派に關せざるの意)の教育を授くるとのことなりしにも拘らず、彼の關係者等搾りに教授に干涉し、佛教主義を注入せんとするより、女史は安からぬことに思ひ居たり、然るに女史は一朝翻然悟る所ありて去る六月當地講義所に於て洗禮を受けたるより、僧侶輩は大いに激昂し、邪教を信ずる奴原は免職すべし放逐すべしと眞赤になりて意氣捲けば、女史も之を聞て斷然辭表を差出しぬ、之れに付て獨り憐れむべきは幾多の生徒にて、一同慈母に離るゝの思ひを懷き告別の日の如きは校內肅然として打ち濕り、涙に咽ぶ兒女の聲戶外に漏るゝばかりなれば心なき人々迄も雙袖を絞りたり、偖て女史の該校を去りてよりは校內亦昨日の如くならず出席するもの十の四に過ぎざることとなれりこは生徒の過半が女史德を慕ひ從前の通り教授を願ふにぞ、女史も氣の毒のことに思ひ自宅を假りの校舍と定めて教授を初めしによることと知られたり、然るに生徒の數は日々に增加し、何分此儘にては狹隘にて万事不都合なるを以て有志者等奔走し、手宮に一黌を新築し、名を高嶋女學校と命じ、九月中旬より開校の運びに至るといふ、將來神の榮光此の校內より發射すべきなり。(福音新報)。

●珍らしき婦人　靜岡縣駿東郡片濱村々長渡邊喜十郎氏の祖母おこのといふは、今年七十八の高齡なるが、年齡三十一の時、本夫周助に死なれし後は殊に貞操を堅く守り、家も本夫が存生中より不自由なき生活なれば、村內の者ばいふもさらなり、貧困の者ありと聽けば必ずや品物を施し、慈善の事のみに意を傾け、村內の褒者となりし夫婦も、子といふものなくて周助は終りたれば、緣者より喜兵衛と云ふ者を養子とし、それに妻を迎へ、身代を悉皆讓り渡し、喜兵衛夫婦は子を舉けたれば、喜びて喜十郎と名をつけ、兩親よりも愛し育るに、一家皆此おこのゝ行を見習ひ、能く節儉を守り和合し、生活目出たきも全くおこのが四十七年堅固に子孫を薰陶し、實に村內の龜鑑となれるにて、それが爲め村長には曾て醜聞あるを聞かずと云ふ。

●孝子と貞女　大坂府下住吉郡百濟村大字鷹合村に住む助田石松といふは、今年十一の小供ながら、天性至孝にして父母に事へ、弟妹を大切にすること大人も及ばぬ行爲あり、一昨年六月頃より其父吉兵衛病氣に罹り、昨年十二月死亡せし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

後は其日の烟さへ立て兼ぬるを、母と與に業を營み、一日半時も怠りなきは奇特なりとて、山田府知事より金一圓の賞賜あり、又日根郡市村の橋本すゑ（三十一年）と云ふは舅に事ふること尋常ならず、良人某の死去せし後、親類縁者より入夫してはなど、勸むるものありても、之を辭し、亡夫の遺兒三人を養育しながら、朝夕星を戴いて耕作に從事すること數年一日の如くなるは、此れも奇特なりとて同じく金一圓を下賜せられしと。

●孝女　新潟市秣川岸通一町目三十番戸畠山キミの養女ツル（三十五年）は、不幸にして三人まで夫を迎へしも、何れも一子を擧げては死去したれば、ツルは獨身にて養母及び三人の子供を相手になし、永々病臥せる養母を看護し、晝は米舂を爲し、夜は氷雪を賣り歩き、雨降る夜は家にありて賃仕事を爲し、晝夜間斷なく稼ぎ、養母の看病は云ふまでもなく、子供等の養育も怠られねば、近隣の者孰れも感じ合へるよし。（以上三件、宗教）。

●明治二十四年京都府女學の概況　◎年末在小學校女生徒の數は二万五千二百九人、前年に比して千百八十九人を増す◎小學校に敎ゆる女教員は九十九人、其月俸は最多額十三圓、最寡額六圓なり、授業生をなせる女子は五十一人、月俸は八圓を最多とし、三圓を最寡とす◎師範學校に於て現今任用する所の女教員三人にして、女生徒は四十二人、當年の卒業女生は六人ありたり◎府立高等女學校は前年校舍を増築せしも、本年に入り生徒次第に増し、復教室の不足を見るに至れり、現今任用する教員は男十七人、女十四人、生徒の數は四百九十八人、前年に比し三十九人を増す、當年の卒業生は三十七人にして、內本科二十八人、和服裁縫科十人、洋服裁縫科七人とす◎各種學校に於ける女教員は四十七人、女生徒は二百四十八人、前年より生徒の數百八人を増す。

●明治二十四年奈良縣女學の概況　◎各種學校に學ぶ女生は四百二十人なり。

●明治二十四年嚴手縣下の女學　◎公立小學校の女生徒は八千八百三人なり◎小學校の女訓導は八人、授業生は九人なり◎各種女學校は、裁縫を教授する者三、他に女學校一あり◎嚴手女學校は當年創立する所、未だ成績の記述すべき者なし。

●岩手縣盛岡通信

◎盛岡女學校　當地天主教徒の創立せる同校は、愈々新築落成して本月一日より開校する筈。

◎バイブル、ウーマン　横濱聖經女學校卒業生高島ちう子外舟越ちゑ子の兩女は、當地美以教會の婦人並日曜學校の爲めに働き居らる。

●義和君の婚事　朝鮮國義和君の婚姻に就ては、國王王妃を始め諸閔、國太公等の間に一の大問題となり居りしが、昨今聞く所に依れば、愈閔泳圭氏の女を娶らせ玉ひ、不日婚禮を擧げ玉ふ都合に至る可しと云ふものあり。

●獨逸皇后と新教會　伯林に於て新しき教會を建つるとは、從來幾多の傳道會社が望んで得ざる所なりしが、此度は皇后陛下の力により、此希望の滿足せらるゝが如し。陛下は敬虔忠實のクリスチアンにして、皇帝陛下と共に伯林百五十万の人民が教會及び福音を離れては、如何なる危險に立ち至るべきやと日夜に痛心し玉ふものなり。又陛下は先頃コンスタンチノープルに遊歷し給ひし節、土耳古皇帝は貴重なる寶石を贈りしかども之を辭し、却て個人の友愛上より新教派教會をベツレヘムに建設せられよと勸告し、其同意を得給ひし方なり。今上皇帝が尚ほ太子にてあり給ひし間は、夫妻常に市內傳道に熱心なる補助を與へ、ウチルダシー伯の家、又は其他に於て屢々傳道擔任者と會合し給ひしことさへあり。而して皇后陛下は、伯林新教會建設會の保護者たるを茲に二年、已に六箇の教會を建つるの准備整頓するに至りしは、首として陛下の力なり。皇帝も亦之が爲めに十万マルクを下賜せられたりといふ。（福音新報）。

●北米料理學校の卒業女學生　昨年中北米ボストン府の料理學校に於て卒業したる婦人の總數は、一千八百人なり。

●婦人の齒科醫　瑞典にては婦人の齒科醫大に人氣を得たるより學者間にても、もはや婦人を賤む事なく該科を修むるの加勢を爲すに至れり。

●支那に於ける宣教女醫　は其數五十六人あり。

●ガムベツタの腦女に同じ　彼の死后其腦を試驗せん爲めに送くりしが其報ずる所によれば若し此の腦の誰に屬せしやを知らしめずして解剖せしめんに醫家は其才能を能く用ひたる婦人の頭腦なりと云はんと。以て女の腦は男子に劣れりと言ふ可らざるを知らん。第一の大腦はキウビーア、其次は或洗濯屋のおバアさんなりと言ふ。腦の輕重にて直ちに男女を優劣す可らず。

●レビツト夫人　殆んど八年間婦人基督教禁酒會の爲外國にて働かれたるレビツト夫人は、此頃皈國されたり夫人は旣に其名の知られたる重なる國々を巡廻し最后に南亞米利加を遊歷し五ヶ月間爰に滯在せられたり夫人は八回赤道を越え四十三ヶ國を廻り百三十の會合を組織し千六百度の會集を爲し四十七ヶ國の言葉にて演說し十錢義捐金の募集にて十万英里旅行せられたり夫人は又褒貶毀譽の間に身を處されたれば其よりて來る所を了知せられ今はマサチユセスなるボストンにて桂冠を戴きつゝ息ひ居らる。

●日耳曼婦人の醫科教育　近頃プロシヤにては七千人の婦人により記されたる歎願書をプロシヤの立法官に當て又四万の日耳曼婦人はリイチエスタグに向けて大學校にて婦人の爲醫學教育の許さん事を請求せしに、此度は政治上各局部の代議者によりて勸和され今は終に政府に達したり必らず請求者の歎願の答案として一法の立らるゝ事ならんと確なる希望を抱き居れり此等の歎願者は甚だ伶俐に其要求を述て曰くラウエンベリンより中學校に向て女子の入校を要求する時は直に拒まるゝにも係らず誰にても婦人にして大學校にて醫學を修めんとするものゝ先づ受けざるべからざる試驗の充備を私に爲す者は中學校にて格外として試驗し得らるゝ樣許されん事を乞へり此等の婦人によりて組織せられたる會をフラウエンボールと云ふ其名の示す如く此の會は婦人一般の上に變化を來し利益を與ふるものなるべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

孤兒之友

音捌子編

北海孤兒院六七兩月分報告

●寄付品

一菓子	一袋	紋鼈	無名氏
一馬鈴薯	一斗	仝	齋藤良知
一孤兒院印	一箇	室蘭	前田駒太郎
一牧者雜誌	二部	東京	藤井米八郎
一女學雜誌	毎號	仝	女學雜誌孤兒之友
一馬太傳	三册	札幌	森山氏
一馬鈴薯	五升	紋鼈	鹽野宗平
一基督敎新聞	毎號	横濱	林クヌ
一福音新報	三部	東京	福音新報社
一柄杓	一本	紋鼈	中澤正
一敎誨叢書	第五輯	網走	阿部政恒
一如露	一個	紋鼈	中澤正

●寄付金

一金廿錢	東京	益田春
一仝貳圓	紋鼈	大槻宗之進
一仝五圓	東京	岡見清致
一仝三圓三拾三錢	仝	岡見仙吉郎
一仝貳圓	仝	岩瀬泰三郎
一仝壹圓廿五錢	横濱	河田丞
一仝參拾錢	紋鼈	田村顯元
一仝五圓	仝	有志者
一仝貳圓	仙台	唐澤造酒
一仝貳圓	山形	大石憲英
一金六拾貳錢五厘	雞卵	賣上代金

總計金廿參圓七拾錢五厘

支出金

一金三拾壹圓六拾貳錢壹厘	白米及糯穀
一仝壹圓九拾七錢四厘	鹽及醬油
一金壹圓廿四錢三厘	八百屋物
一仝壹圓拾壹錢八厘	紙類
一仝拾三圓九拾錢五厘	農具
一仝四圓二十錢	秣及薹
一仝七拾五錢	衣類
一仝貳圓六拾三錢五厘	養蠶具及桑代
一仝六拾錢〇貳厘	魚類
一仝三拾壹錢	下駄類
一仝六圓〇七錢	郵便切手及ハガキ
一仝九拾貳錢	印刷物
一仝拾圓	耕馬壹頭
一仝七拾六錢	藥料
一金拾六錢七厘	勝手用雜品
一仝四圓五拾七錢五厘	家具
一仝壹圓	家賃
一仝壹圓九拾八錢五厘	旅費
一仝五拾九錢壹厘	種物
一仝六拾三錢五厘	炭
一仝九拾七錢	石油

總計金八拾六圓〇三錢壹厘

差引不足金六拾貳圓參拾貳錢六厘　準備金ヨリ支出

北海道有珠郡東紋鼈村百廿九番地

明治廿五年八月　北海孤兒院

七月中　仙臺孤兒園寄附金報告

一金參拾五錢		東北救世軍
一金參拾錢	宮城縣吉岡町	木幡富次君
一金貳拾錢	東北學院生徒	田村兼哉君
一金拾五錢	仝上	玉野勝君
一金壹圓	仝上	土田熊司君
一金六圓	仝上	菜君
一金參圓	仙臺	日本基督婦人慈善會
一金貳拾錢	仝上	友田梅君
一金壹圓	仝上	唐澤造酒君
一金壹圓	仝上	鐸木近吉君
一金參拾錢	仝上	奥太一郎君
一金貳拾錢	仙臺	山本有成君
一金壹圓	仝上	藤生金六君
一金參拾五錢	仝上	中材忠篤君
一金拾錢	仝上	安部清行君
一金五拾錢	中村	野崎セン君
一金拾五錢	仝	高城カノ君
一金拾五錢	仝	高城君北堂
一金拾錢	仝	守屋イノ君
一金拾錢	仝	立谷セキ君
一金四錢	仝	上野君北堂
一金壹錢五厘	仝	島貫マサ君
一金壹錢五厘	仝	吉田信君
一金拾五錢	仝	吉田マチ君
一金拾錢	仙臺	小山甚太郎君
一金貳拾錢	中村	末永リン君
一金貳拾錢	仝	持館嘉平君
一金參拾錢	仝	深谷ケイ君
一金貳拾錢	仝	橋本ツキ君
一金壹圓	仝	吉田龜太郎君
一金壹圓五拾錢	仝	鎌田君外四名
一金貳拾錢	仝	吉田君下婢二名
一金拾五錢	仝	吉田北堂君
一金拾錢	仝	坂本大次郎君
一金四拾錢	仝	靑木君外數名
一金貳圓	仝	佐藤義信君
一金拾九錢五厘	北海道	菅田勇太郎君
一金壹圓	長岡	芳賀甚七君
一金拾錢	若松	名越チカ君
一金拾錢	仝	海老名サト君
一金五錢	仝	要モン君
一金貳拾錢	仝	宮崎ツ子君
一金五拾錢	仝	中村酒造君家族
一金拾錢	仝	羽生ミツ君
一金拾錢	仝	八島フシ君
一金六拾錢	仝	照井正六君
一金參拾錢	仝	佐藤政吉君
一金五錢	仝	野矢君夫人
一金拾錢	仝	佐藤マサ君

一 金壹圓　若松　幼年會女子部
一 金拾錢　若松　井澤菊八君
一 金拾錢　仝　鈴木潔君北堂
一 金五錢　仝　渡邊ミト君
一 金拾五錢　山形　宇野須太郎君
一 金貳拾錢　中村　菊妻周藏君
一 金貳拾錢　仝　鈴木忠記君
一 金貳圓五拾錢　仙臺　某君
一 合計金參拾圓四拾一錢五厘

寄附物品之部

一 袷　壹枚　仙臺　木村清松君
一 飯茶碗　拾人前　仝　小平タカ君
一 味噌　壹瓶　仝　島貫君
一 半紙　三帖　仝　岩井長太郎君
一 落紙　三帖　仝　仝君
一 小學唱歌集　二冊　仝　島貫兵太夫君
一 漬物　壹樽　仝　佐藤君夫人
一 單物　二枚　仝　佐藤信寔君北堂
一 ハンケチー布　六枚　仝　平岡君
一 袷并ニ羽織　各一枚　仝　山崎德也君
一 釜　壹個　仝　岩井長太郎君
一 單物并袴各　壹枚　仝　橋本瞭助君
一 シャツ　壹枚　仝　田村[illegible]哉君
一 丼鉢二個飯茶碗五個　仝　水谷テツ君
一 中皿　拾人前　仝　小平タカ君
一 茶碗　十個　仝　岩井長太郎君
一 茶　壹袋　仝
一 [illegible]　三個　仝
一 味噌　一箱　仝
一 豆　壹袋　仝
一 カキ餅　壹袋　仝
一 [illegible]　壹個　仝
一 [illegible]　二個　仝
一 大根掛干　壹袋　仝
一 [illegible]　壹車　仝
一 [illegible]之[illegible]獻　[illegible]冊　島貫兵太夫君
一 子供[illegible]　五枚　仝　石井熊三郎君
一 石盤　參枚　仝　仝

一 硯　壹個　仝
一 灯燈　壹個　仝
一 紙　數十枚　仝　仝
一 石版圖　壹枚　仝　城生君
一 袷　壹枚　仝　首藤鷲郎君
一 シャツ　壹枚　仝
一 スホン　二枚　仝
一 木綿切　數點　仝
一 夜具　壹枚　仝　宮部氏夫人
一 敷布　壹枚　仝
一 蚊帳　壹張　仝
一 單物　四枚　仝
一 大盥　壹個　仝
一 皿　五枚　仝
一 飯茶碗　三個　仝
一 茶碗　五個　仝
一 菓子　壹袋　仝
一 茶銚　壹個　仝
一 器物　壹組　仝
一 椀　二個　仝
一 ランプ　壹個　仝　細谷ヨ子君
一 茶　壹袋　仝　山田源次君
一 菓子　一袋　仙台　細谷米君
一 單物　一枚　中村　吉田龜太郎君
一 紙包　壹個　仙台　田崎綱三郎君
一 袷羽織　一枚　仝
一 洗桶　壹個　仝　細谷ヨ子君
一 提燈　壹個　仝
一 盃　貳組　仝
一 豆　壹袋　仝
一 茶入鑵　壹個　仝
一 古椀蓋　數個　仝　清野君
一 大根漬　壹桶　仝　唐澤造酒君
一 饅頭　一袋　中村　吉田龜太郎君
一 菓子　一袋　仙台　佐藤庸男君
一 紙包　壹個　仝　酒井勝軍君
一 單物　壹枚　仝　土田熊司君
一 莢豆　壹箱　仝　畑谷米君

一 櫛　壹個　仙台　石井熊次郎君
一 莢豆　二重　仝
一 飯櫃　壹個　仝　高等中學校生徒數名
一 代數學　二冊　仝　島貫兵太夫君
一 專門學會雜誌　二冊　仝
一 國民之教育　二冊　仝
一 英語通辨　一冊　仝
一 シャカ芋　五升　仝　三浦宗三郎君
一 糸　壹把　仙台　畑谷米君
一 梅　百余個　仝　玉越君
一 鍋　壹個　仝　田崎綱三郎君
一 葱　十餘把　仝　仝
一 子供夏着　六枚　若松　中村敏造君
一 子供着物　四枚　仝　木下ヒデ君
一 木綿切　若干　仝　楠ヨシ君
一 紙包　壹個　仝　田崎綱三郎君
一 女學雜誌赤表一ヶ月分　女學雜誌社

廿五年七月分仙台孤兒園決算表

一 金三十圓四十一錢五厘　寄付金高
一 金二十九圓五十九錢四厘　支出高

内譯

一 金九圓五十五錢五厘　米代
一 金拾圓五十四錢貳厘　旅費及車代
一 金壹圓七十九錢八厘　薪炭油味噌醤油等
一 金壹圓九十三錢四厘　器具類
一 金壹圓貳十三錢　八百屋物類
一 金八十一錢貳厘　藥價
一 金四十貳錢貳厘　筆墨紙代
一 金三十一錢五厘　履物代
一 金五十八錢　郵便税
一 金貳十六錢三厘　針系類理髮料
一 金五十一錢　書籍代
一 金四十三錢八厘　牛乳代
一 金四十六錢　雇人日給
一 金四十七錢三厘　牛魚卵類
一 金貳十七錢五厘　湯錢及石鹸類

差引殘金八十錢壹厘

廿五年八月

仙台孤兒園

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

巖本善治君編

女學叢書

木村鐙子小傳

定價 金八錢
郵税 金貳錢

島田三郎君の序に曰(前略)今を距る拾五六年前世人女子教育を說く者なく婦人も亦中饋の職を以て自ら劃り見子教育の要務をも擧げて初めより之れ他人に委ぬる者比々皆是なり此時明に當りて婦人教育の要を覺り唯之を口にせずして之を躬にし自ら學び又其子を教へて以て家道を盡すに至る是れ既に尋常婦人を以て之を見る可からさるなり特に其夫の遠方に在るに際し孤身能く衰零の家に幹するに至りては最も感ずへし余年十七八田口卯吉君と駿州の鄉校に相知り其后君と前后東京に出てゝ相往來す二人窮する甚くして學資乏絶を告ぐると屢々なり予君の居に到るに屋傾き壁破れて一見其家道の衰零を知るべし然れ共其待遇の豐厚は君の世計に過ぐるあるを覺ゆ怪みて之を他の友人に語るに亦然りといふ後に至りて其婦鐙子君が田口君の友を待つに意を致すによれることを知れり予の鐙子君を親く知るは實に近年に在りと雖予鐙子君の知遇を待るは實に十年以前に在りて嘗て之を知らざりしあり田口君常に言ふ予の成立は姉の助による者多しと此言眞に然り今や田口君世に名ありて家道も亦興れり而して鐙子君は逝きぬ悲ひ哉(中略)嗚呼鐙子君の如きは之を花に比ふるに唯梅の是に當るを得へき乎(下略)

適堂學人嘗て曰(前略)明治の世にありては老將の戰袍を脱て儒衣を着せし如く戰國未開の習慣を拋て婦人嬌風の主唱となり女子教育を率先し仔々として惰らず死にいたりて後に止みやぬ嗚呼鐙子のごときは亂るゝ世の女丈夫治れる世の淑女とやいはまし此はその古人も最難しとせる所なり况や白梅の雪に包れて其香を愈よゆかしく青柳の風に揉れて其枝の折るる事なき風趣あるかの婦人の貞操苦節は明治女流の師表たるに足ぬべしといふ此卷をひもとくもの輕々看過する事なかれ。

東京麹町區下六番町 女學雜誌社

福井

定價一枚壹錢五厘●一ヶ月貳十五錢●三ヶ月六十五錢●廣告料五號活字二十二字詰一行一日分二錢五厘●四號活字一行三錢●二號活字一行四錢●月曜日及大祭日翌日休刊

福井 福井 福井 福井 福井

の用筆は森嚴にして立論は中正なり
の報道は迅速にして記事は確實なり
は官に媚ひず民に阿らず正直行々如
は正を正とし邪を邪とし言論諤々然
の本領は一着眼世に高かき處に在り
の特色は一肚皮時に合ざる處に在り
は教育衛生の思想を普及するに力む
は農工商業の發起を奬勵するに任ず
は斬新にして穠郁なる詩歌を採録す
は豐腴にして典雅なる小說を掲載す

發行所 福井縣福井市佐佳枝中町五十一番地 福井社

速記者

毎月一回發行●一部三錢●十二部前金卅錢●無遞送料●郵便切手代用隨意

『速記者』は初號以來速記社社員獨得の技倆を利用して速記せし**重野博士**の逸話 先賢**栗本鋤雲翁**の幕末經歷談等を掲げ大に江湖の喝采を博せり、今回發行の**第三號**には**福地源一郎君**の**山縣大貳 藤井右門**及**竹內式部**三氏に關する新說を掲げたり、次號以下益々材料を精撰し珍奇なる談話を掲ぐべし

發行所 東京市神田區猿樂町二番地 速記社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

毛のはへる香油

一名ふけしらず **美人かつら**

大瓶 金三十銭
中瓶 金二十銭
小瓶 金十銭

イヨー寄妙〳〵コンナ薬鑵でさへ毛がはへるから抜毛や薄毛抔は直に澤山毛がはえるに違ひナイ

此美人かつらは極々清浄なる植物油をうすめたるものに髪をこやし毛をはやす効能薬を加へたるものにして男女常に髪化粧に用ゆれば髪をこやし髪の發育を盛んにし髪の抜落てはげる事なく志らが赤毛となる事なし又髪のうすきを厚くしほそきを太くしのぼせなどのうれいなくふけやできものなどを生ずる事なし又産前産後などに髪の抜け始めしときは少しも早く塗用すべし抜け毛を止め毛あしを速くする事妙なり又既に抜け落たるあとなつぼしできものやけどのあとなどに塗り附ればおのづからいつとなく毛のはへること確實なり男女殊に髪化粧に最とも適當のものにして髪はさら〳〵としてつやをもちねばつきあせ臭き等のうれいなし用方小なる筆か小ばけにて髪の根に塗り又は常の水油の如くにして用ゆべし

御遠方より御注文の節は郵便爲換又は郵便切手代用にて宜敷猶水物に付通運便にて御送可申候

懐中良薬 **れまかつら**

紙製 一銭五厘
布製 二銭

主治 づつう●はのいたみ●うちみ●きりきず●ひゞしもやけやけど●りよまちす其他諸々のいたみによし且阿娘の頭痛に悩める津液を以て痛所へ用ゆれば速に其効を奏し暗に清香を發し宛も桃花の朝に露を注ぎ牡丹の夕に雨を過せるが如し自ら美人の粧を作す實に奇製の良薬也 願ば四方の諸君愛求を仰望す。

きめのよくなる

●此玉子ぬかは御婦人がた常に御用ひのぬかへ薬を加へ玉子にてねりたるものにて御用ひの節はゆでも水にてもしめし手のひらにてすりおとし其の手にて程よくはだにすりこみ手ぬぐいにてあらひおとしなさればはだはゆで玉子のむきたての如くうつくしくなりておしろいのり寄妙なり但し御つかいのあとは紅糸の所をかけざほ又は釘にかけおきいくたびも御つかひなさるべく又玉子ぬか一ッにて十日位ひ御用ひ相成候御徳用第一のぬかなり●御進物用美れいなる折詰調進仕候也

一個にて十たび分 定價一銭五厘

●元祖色白くなる三能しやぼん 一個十銭
●おしろい下日にやけぬ水玉のはだ 六銭

發賣元 東京銀坐一丁目つやぶきん本家 電話番號四百七十二 **佐々木玄兵衛**

各府縣下は有名確實品販賣薬舗又は和洋小間物店にて取次賣捌仕居候間御最寄にて御購求奉希上候

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

正札引なし

新形 流行

○はなり紐 品々
○帯留類 品々
○時計紐 品々
○メリヤス 品々

右ノ外組糸一切御好ニ應ジ精製仕〇御進物等ハ美麗ニ調進仕候

組糸老舗

日本橋區よし町 佐竹勝兵衛

○御用ノ節ハ御報知次第參館仕候

三島中州先生序　巖谷一六先生書
齋藤拙堂先生著　諸名家批評

拙堂紀行文詩

本版和裝美本
全八卷
合本二冊

定價六十錢　郵送料六錢

目錄

京華游錄 嵐山及近地諸名勝○文
客枕夢游錄 芳野及和州諸名勝○文
爍泉餘草 養老瀧及美濃諸名勝○詩
南游志 紀州○文
京華游錄附錄 詩
白衣漫吟 江戸城○詩
續渫泉餘草 城崎天橋立及近地諸名勝○詩
南游志附錄 詩

批評諸名家

頼山陽　廣瀬旭莊　野村藤陰　森春濤　池内陶所　小浦青崖
梁川星巖　後藤松陰　鷹羽雲淙　龍雉孝　巽遜齋　齋藤誠軒
篠崎小竹　岡本花亭　藤森弘庵　菊池溪琴　家里松嶹　中内樸堂

拙堂先生ノ著書ハ文集文話及月瀬紀勝等既ニ久ク世ニ行ハルレ𪜈獨リ此書ハ家ニ藏シテ世ニ出ダサザリシガ今刻成リ本社ニ於テ發賣致候先生文詩ノ妙ハ世間既ニ定論アリ且ツ此書ノ如キモ諸名家ノ批評ニテ盡シタレハ今更喋々稱贊ヲ待タス名勝ヲ好ムノ士ハ以テ臥遊ノ樂ミアルベク詩文ヲ好ムノ士ハ以テ詞藻ヲ翫ブノ快アルベシ殊ニ初學ノ文ヲ學フニ志アル者ハ一讀必ス餘師アラン

發行所　東京麴町富士見町一丁目三十四番地　益友社

毎土曜日發兌

東京經濟雜誌

第六百四十號目錄
九月十日發兌

社說●郵便税を減却すべし●政客●伊藤内閣の方針如何●國民新聞を讀む●在米日本人退去の報道●近世財政事情(片桐正雄)●文官試験規則改正論(三)(替水漁史)**歳計決算**●明治廿一年度歳入歳出總決算豫算比較表●銀行及商業之景況(數件)●官令數件●定價一冊金七錢(市外一冊郵税五厘增)

寄書●松方伯と明治の理財法(文學士阪谷芳郎)●對外商策一斑(續)(高木徹三)●商業會議所條例論(續)**十助漂流記**●明代福州府漂着口書**雜報**數件

東京市京橋區彌左衞門町七番地
經濟雜誌社

第四回夏期學校編

函嶺講話

來ル二十四日ヨリ發兌ス

正價二十五錢
郵税金六錢

第四回夏期學校ハ萬人歡呼ノ中ニ開カレテ萬人喝采ノ中ニ閉セリ、其成功ノ原因ハ主トシテ諸講師ノ至誠虔敬、身ヲ以テ招聘ニ應シ、其講演ノ十分ナル準備ト、言フヘカラサル刻意ノ中トニ成リタルニ由ル、其講演ヲ漏レナク採集シテ一字ノ増減ナク「即チ其案ヲ拍テ慨憤シ聲ヲ昂ケテ歎泣シ、場中二百ノ青年ヲ吐納ノ間ニ動カシテ、或ハ訓ヘ或ハ嘆キ或ハ勵マセ或ハ憂ヒ或ハ奮ハセ或ハ哭セル當時ノ詞白、彩藻ヲ」凡テ其儘ニ描キ出セル者ハ即チ此編ナリ

有利ノ結果アルヘキヤ否ヤヲ知ラサルモ兎ニ角ニ第四回夏期學校ハ著ルシク世人ノ注目ヲ惹ケリ、即チ本編モ亦深ク諸君ノ愛讀ヲ辱フセンカ、望ムラクハ寓目ヲ賜ヘ

出版委員　田川大吉郎
　　　　　上領純一　拜白

僅々七八名ノ委員諸君赤手其儘ニテ立チ上カリ四方慈善家ノ仁心ヲ動カシテ四百餘圓ノ資金ヲ集メ内外ノ數師十五名ヲ招キ殊ニ哲學ノ名家ラッド先生ヲ海外ヨリ招聘シテ十有二日間ノ夏期學校ヲ設立シ首尾能ク成功アラシメマシタノハ我基督教社會ニテ尤モ注目スヘキ快心ノ事業ナリシト信シマス、ソコテ其勇マシキ心ニ動サレ弊店モ亦聊カ力ヲ簪ヒ廣ク青年社會ノ益ヲ圖ラントト思ヒ立チ此書ヲ引受ケテ出版スルコト爲リマシタ、ドーゾ諸君、委員ノ志ヲ憐レミ併セテ本社ノ微意ヲモ酌ミ續々愛讀ノ榮ヲ賜ハランコトヲ切望致シマス

東京新橋出雲町一番地
警醒社書店

横山雅男君著

婚姻論

目次

第壹章 總論
第二章 婚姻の定則
第三章 婚姻は人類の天性
第四章 婚姻の効力
第五章 婚姻數は社會の盛衰によりて增減す
第六章 早婚上
第七章 早婚中
第八章 早婚下
第九章 晩婚
第十章 私婚上
十一章 私婚下
十二章 血族婚上
十三章 血族婚下
十四章 濫婚上
十五章 濫婚下
十六章 離婚上
十七章 離婚中
十八章 離婚下
十九章 正婚
二拾章 結婚年齡
廿一章 結婚年齡の差
廿二章 男女共諸法上
廿三章 男女共諸法中
廿四章 男女共諸法下
廿五章 男女互に撰ふ事
廿六章 結婚の境界
廿七章 離婚
廿八章 結論

目次終

洋綴中本 二百三拾九頁
特別賣價 金拾六錢
郵便稅 金四錢

東京市麴町區下六番町六番地

女學雜誌社

看護婦派出廣告

看護婦入用の節は御依賴に應じ本會より派出致可申候
但し地方へも差出し申候●貧困者は無給の事

東京本所區森川町壹番地 慈善看護婦會

鈴木弘恭大人著

再版 增補

文法口授 一名和文獨案內

(半紙判日本綴)

特別賣價 金拾二錢
郵便稅 金二錢

目錄

(一)文と云もの丶譯
(二)章句段節の譯
(三)文を作るは容易なる譯
(四)多く文を作るを善とする譯
(五)文を作る工夫の事
(六)草稿の譯幷に書方
(七)文を練磨する[illegible]
(八)文を作るに病[illegible]事
(九)佳篇を作る法
(十)文を培養する法
(十一)種々の文例

東京麴町區下六番町

女學雜誌社

巖本善治編

吾黨之女子教育

小形二百十七ページ
定價郵稅共金拾錢

「吾黨の女子教育」成る。巖本善治君の演述又は起草に係るものを編せしものにして、本校教育の精神、期圖、大率ね之に同じく、現今實施する所ろ亦之に異なるとなければ、此書亦用ひて「吾校の女子教育」を代言するものと謂つべし。故に、君と計り、吾校之を版にして、世の同志に示すとす。

全部十五章

明治女學校生徒に告ぐ……一
目下の女子教育法……一
何をか中正の旨義と云ふ……三十
女子教育に關する幾多の謬見……三十
女學及女子教育……五十四
母妻論……六十四
女學に反對する者の言論……八十四
日本女學讀本編纂……九十二
女禮と躰操……百

上躰操……百
下女禮……百五
女學校の裁縫科……百十二
塾舍に三の法あり……百二十二
武道の辨……百二十七
老母に代つて女學生へ苦情……百五十
細君內助の辨……百五十九
當今女子教育者の胸臆……百九十七
女學普及の經綸……二百〇七

明治女學校出版

女學雜誌社發賣

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

鈴木弘恭大人講述　附錄小倉てびき

第四版　百人一首講義

正價金廿八錢　郵稅四錢

御高評を得たる百人一首新年に至り注文いよく多く第三版品切に成りたれば玆に第四版を印行す。

發兌元　東京麴町區下六番町六番地　女學雜誌社

女學雜誌大取次所

- 東京市本町三丁目　瑞穂屋卯三郎
- 同　錦町二丁目　武藏屋
- 同　尾張町二丁目　東海堂
- 同　通左衛門町　巖々堂
- 同　表神保町　東京堂
- 同　出雲町　警醒社
- 同　鐵砲町　指金堂
- 同　元富士町　盛春堂
- 同　雉子町　團々社
- 福岡縣福岡　積善館支店

- 神奈川縣横濱市　共同新聞發賣會社
- 同　同　万字堂
- 京都佛光寺烏丸　東枝律書店
- 同　新町竹屋町　便利堂
- 大坂淡路町四丁目　岡島支店
- 同　同　福音社
- 神戸元町四丁目　福音社
- 函館市　福音社
- 熊本縣熊本　草野門平
- 京都新町二條　大黒屋書店

女學雜誌市內賣捌店

麴町區上六番町　同三番町　同　同飯田町　同　神田區神保町　同　同雉子町　牛込區神樂町　同　同肴町　本郷區弓町　同　同富士前町　同二丁目

日梅福三洗松青大積正深文読解盛古
盛仙音文字心江柳塚書田導瀰字本明春河
兵籍
堂堂舍屋堂堂店堂舍衛堂堂堂堂屋

下谷區東黒門町　神田區松岡町　同旅籠町一丁目　同鍋町　日本橋區本町三丁目　同櫻田本郷町　芝區南佐久間町　同　同　赤坂區新町　同　京橋區尾張町　同出雲町　同　本郷區天神町　神田區小川町　同錦町二丁目

三山榎清庭鈴栗鈴赤飯鈴金山吹大長
口一次　水嘉兵　木花新兵　川市兵　々盛田進雜故塚誌
堂郎本衛堂衛原木衛田木堂屋堂店堂

其他書籍繪双紙店に於而賣捌く

是迄女學雜誌並に書籍代金社弊巖本善治宛にて御遞送に相成候向きも有之候、右にては帳簿登記上其他に於て不便に御坐候に付何卒以後直に女學雜誌社宛にて爲替御取組御郵送被成下度候

爲換御取組　女學雜誌社發送部

一新誌及び書籍代金二十錢未滿は郵券代用不苦候、郵券は五厘切手一割增の事

一雜誌及び書籍代金通運便にて御送付の向は屆け賃とも濟にして御送付相成度候

女學雜誌代價

○白赤双方合せ講讀の分

		前金	府外
十册		五十八錢	六拾三錢
廿六册	(半年)	一圓四十三錢	一圓五十六錢
五十二册	(一年)	二圓六十十錢	二圓八十六錢

○白赤の內一方講讀の分

		前金	府外
六册		三拾五錢	三十八錢
十三册	(半年)	七拾三錢	七十八錢
廿六册	(一年)	一圓三十錢	一圓四十三錢
一册		金六錢	

郵稅金五厘

廣告料及無料廣告

	一回	前金
一行 (廿七字詰)		拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

○十行以上一割引。二十行以上二割引。

○四十行同四割引。

但し不道德なる廣告は謝絕す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く

○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する每に右雜誌十部注文を要し以上半頁每に十部增さ定む。

東京市麴町區下六番町六番地

發行所　女學雜誌社

編輯兼發行人　巖本善治

印刷人　堀口庄三

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY